

# 創立30周年 記念誌



沖縄県立沖縄高等特別支援学校



# 沖縄高等特別支援学校創立30周年記念式典

令和2年7月11日(土)

司会 玉城 穰

- 1 開式のことば.....教頭 稲田 洋一
- 2 校歌斉唱
- 3 学校沿革概要並びに経過報告.....教頭 稲田 洋一
- 4 式 辞.....校長 渡久地直哉
- 5 生徒会長あいさつ.....長浜 李菜
- 6 来賓祝辞..... (1) 沖縄県教育委員会教育長 金城 弘昌  
(2) うるま市長 島袋 俊夫
- 7 表 彰..... (1) 創立20周年以降歴代校長  
(2) 創立20周年以降歴代PTA 会長  
(3) 医療活動協力者  
(4) 本校教育活動に貢献された企業
- 8 受賞者代表あいさつ.....第10代校長 新垣 ひろみ
- 9 祝電披露
- 10 閉式のことば.....教頭 稲田 洋一

# 目次

## 学校紹介

校歌	2
校旗・校訓・キャッチフレーズ	3
現校長・教頭・事務長・校章・校章のねがい	4
歴代校長	5
30年の歩み	6
現在の沖縄高等特別支援学校	13

## 式辞・祝辞・挨拶

式辞 学校長	学校長 渡久地直哉	18
祝辞	沖縄県教育委員会教育長 金城 弘昌	19
	創立30周年記念事業実行委員長 池田 佳菜	20
	うるま市長 島袋 俊夫	21
	PTA会長 平良 直子	22
	生徒会会長 長浜 李菜	23
	第12代校長 與那覇広次	24
	第13代校長 比嘉 浩	26
	第14代校長 安里 吉実	27

## 学校沿革

平成2年度～令和2年度	30
-------------	----

## 思い出を語る

平成30年度PTA会長	比嘉 優人	38
卒業生保護者	奥間 孝子	39
旧職員	饒波 春美	40
県立名護特別支援学校(旧職員)	狩俣 勝人	41
中部農林高等学校(旧職員)	廣渡 善治	42
西崎特別支援学校(旧職員)	平良 尚紀	43
県立那覇特別支援学校(旧職員)	新膳 才有	44
25期卒業生	川畑 真敏	45
1期卒業生	我那覇好申	46

## 資料

年度別進路一覧	48
---------	----

## 記念事業

趣意書随意書	50
会則	51
各部組織	54
記念事業	55
感謝状受賞者	56
広告	58
編集後記	

# 學校紹介

# 校歌

Moderato



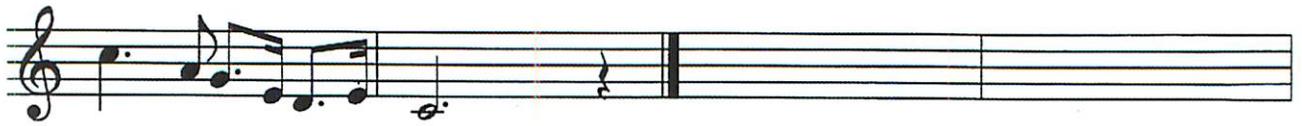
おんなのやまを きたにみて さーえてはえる たばのちに



よものながめも か がやきて い ふう どう どう



そ びえーたー つ これぞ われらの ま



な - び - や - よ

# 校歌

作詞 中村 準  
作曲 嶺井 律子

一

恩納の岳を 北に見て  
さえて映える 田場の地に  
四方の眺めも 輝きて  
威風堂々 そびえ立つ  
これぞ我らの 学び舎よ

二

眼下の金武湾 見渡せば  
大なる希望に 胸はずむ  
真理を究め 体を練り  
知性豊かに 技術みがく  
力あふる 意気高し

三

洋上はるか 東の  
自立の道に 自信もち  
堅き絆と 友情の  
世界へ翔け いざ共に  
互いの支援 永久にあれ



校訓

【希望・敬愛・自立】

希望<sup>ゆめ</sup>…希望<sup>ゆめ</sup>の実現をめざし、勉学にはげむ明朗・活発な人

敬愛…広く友情を深め、自他ともに敬愛する心豊かな人

自立…職業的・社会的自立をめざし、自らの人生を切り拓くたくまし人

キャッチフレーズ

いつでも希望をもち

自他ともに敬愛し

自立をめざす私たち



校長 渡久地 直哉

※1994年当時  
1期卒業生 3年2組副担任

## 校章



色：外円および字は金  
内円は真紅  
葉は鶯色  
葉脈は黄色  
外円ふちは真紅

図案者 波照間 永紘

## 校章のねがい

1. 外円は限りなく広がる宇宙と大地を表し生徒たちの発展と希望を表す。
2. 内円は太陽のごとく燃ゆる情熱を表す。
3. 二枚の木の葉（校木のホルトの木の葉）は
  - 仲良く助け合って学ぶ姿
  - 葉脈は職業コース
  - 緑色は平和を表す



教頭 稲田 洋一

※1994年当時  
1期卒業生 3年4組担任



事務長 新屋 秀樹

# 歴代校長



初代校長  
真栄城 徳仁



第2代校長  
玉城 義雄



第3代校長  
宮城 弘典



第4代校長  
仲田 文雄



第5代校長  
大濱 克巳



第6代校長  
牛田 勝己



第7代校長  
當山 昇



第8代校長  
塩浜 康男



第9代校長  
知花 久則



第10代校長  
新垣 ひろみ



第11代校長  
中石 直木



第12代校長  
與那覇 広次



第13代校長  
比嘉 浩



第14代校長  
安里 吉実

30年のあゆみ



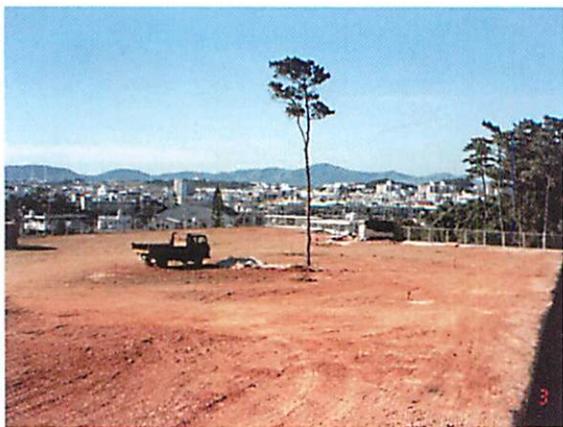
正面玄関周辺整備 1991年11月



平成3年度第1会入学式 1991年4月



開校式 1991年5月



運動場整備事業 1991年6月



新校舎入校式 1991年9月



第1回体育祭 1991年10月



寄宿舍への通路 1992年3月



創立3周年記念式典・祝賀会 1993年6月



第3回体育祭 1994年10月



修学旅行 1996年10月



創立10周年記念祝賀会 2000年5月



第11回沖縄養祭 2001年12月



第13回沖縄養祭 2003年12月



校外学習 2004年4月



お楽しみ会（寄宿舎） 2005年12月



第16回沖高養祭 2006年12月



秋田わかすぎ大会 2007年10月



第10回体育祭 2008年10月



第9回校内陸上競技大会 2009年9月



九州音楽研究会沖縄大会 2009年11月



修学旅行 2010年1月

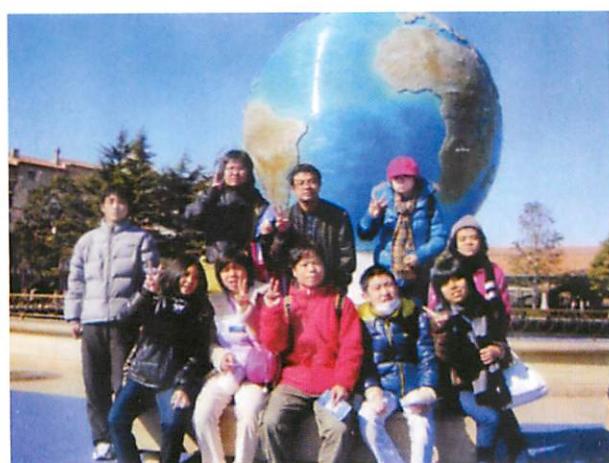


沖縄県高校総体開会式 2010年5月

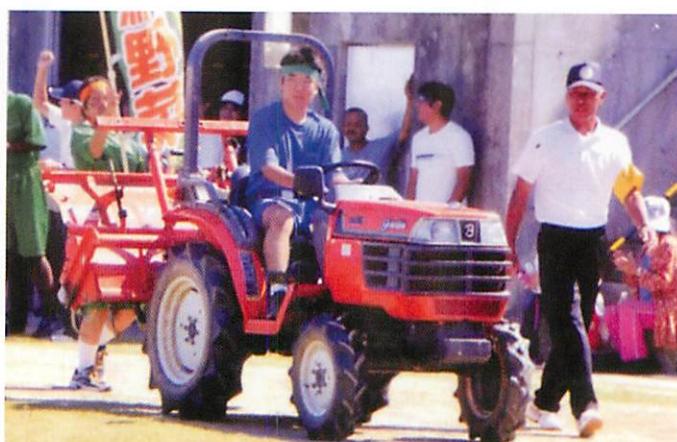


夏まつり 2010年7月

2010 ~ 2012



2012 ~ 2014



2015 ~ 2017



2018 ~ 2019



2020



2020



学校・寄宿舎





式辞・祝辞・挨拶



## 式 辞

学校長 渡久地 直哉

沖縄県立沖縄高等特別支援学校の創立30周年にあたり、沖縄県教育委員会教育長、うるま市長はじめ多くのご来賓並びに保護者の皆様、関係者の皆様のご臨席のもと、盛大に記念式典を挙げていくことは、この上ない喜びであり、生徒、教職員一同心から感謝申し上げます。

本校は平成2年10月18日「沖縄県立高等学校等の設置に関する条例の一部を改正する条例」により「沖縄県立沖縄高等養護学校」として、ここ具志川市田場の地に設立が許可されました。同年11月1日に初代校長に真栄城徳仁氏、教頭大城正大氏、事務長波照間永鉦氏が発令され、県庁内に設立準備室が設置されました。開校まで5ヶ月しかなく、開校準備に際し、いろいろなご苦労があったことと思います。

平成3年4月8日の入学式は、校舎や寄宿舎の竣工のおくれがあり、第1期生45名は、県立総合教育センターで挙行されました。入学式後から5月初旬にかけては、自宅での待機学習となり、5月10日に開校式典並びに開校祝賀会が執り行われ、翌日から県立名護養護学校金武分校で授業が行われました。同年9月に校舎が完成し、本格的に本校教育がスタートし生徒たちは新校舎で授業ができる期待と喜びに満ちあふれていました。

元号も平成から令和へと改元され、本校は、30年目を迎えました。「生徒一人ひとりの特性等を最大限に発揮させ、将来の職業的・社会的自立を図り、働く喜びと誇りを持ち自他共に敬愛する心豊かな人間の育成をめざす。」ことが本校の教育目標であり、開校当初から卒業後の職業自立や社会自立をめざすという教育理念は現在も脈々と受け継がれ、本校教育の特色の一つとなっています。更に平成29年度からは専門学科に関する教科である「就労技術科」を学校設定教科として設置し職業教育の強化と充実を図っています。また、もう一つの特色は、全寮制により寄宿舎生活を通して基本的な生活習慣の確立や社会生活に必要なマナー、人間関係、コミュニケーション等の社会的自立ができる生徒の育成を図っています。本校の強みは学部と寄宿舎が車の両輪のように、生徒一人ひとりの状態や特性及び心身の発達段階に応じて、きめ細かに連携を取り合い協働体制で課題解決に向けた取り組みを行っていることです。その結果、現在多くの卒業生が社会人として活躍しております。これは歴代校長先生方をはじめ本校で勤務された多くの教職員の方々の努力と創立以来変わらぬご協力とご支援を頂いている地域の皆様、保護者の皆様の熱意ある活動が大きな力となっています。

さて、本校10周年で「希望（ゆめ）、敬愛、自立」の校訓が制定されています。「希望（ゆめ）」とは将来世の中で役に立つ人間になるということが、生徒の希望（ゆめ）であると同時に親の希望（ゆめ）であるという意味であり、「敬愛」とは障害のあるなしにかかわらず、すべての人が互いを大切にするとする人権を重んずる心を表し、「自立」とは将来の職業自立や社会自立をめざすという意味が込められています。また、平成21年4月沖縄県立高等学校の設置に関する条例の一部を改正する条例により「養護学校」から「特別支援学校」に校名が変更となり本校は「沖縄高等特別支援学校」となりました。

創立30周年を迎え、これまで緒先輩達が蓄えてきた実践力をしっかりと受け継ぎ、より充実させ、多様性に柔軟に対応できる取組を進めてまいりたいと思います。

最後に、これまで本校の歩を支えていただいた県教育委員会、地域の一員としてご支援いただいたうるま市、関係機関の皆様、保護者の皆様、そしてこの度の記念行事を企画、推進いただいた実行委員会の皆様に改めてお礼を申し上げますとともに、これからも、地域の特別支援教育の専門機関として存在感のある学校づくりに皆様のご理解・ご協力をお願いし、式辞と致します。

## 祝 辞

沖縄県教育委員会教育長 金城 弘昌



沖縄県立沖縄高等特別支援学校の創立 30 周年の佳節を迎えるにあたり、心からお祝いを申し上げます。

沖縄県立沖縄高等特別支援学校は、平成 3 年 4 月に本県唯一の高等部単独の全寮制の沖縄高等養護学校として産声をあげ、「生徒一人一人の特性等を最大限に発揮させ将来の職業的・社会的自立を図り、働く喜びと誇りを持ち自他ともに敬愛する心豊かな人間の育成」を目標に掲げ、一貫して軽度知的障害のある生徒の教育に取り組まれてきたことに敬意を表します。

ここ 10 年間に於いても、「教育課程」や「自立と社会参加に必要な生活指導」、「生徒の意思決定のあり方」などの沖縄県教育委員会研究指定やグループ研究に積極的に取り組まれました。また、スポーツ面においても沖縄県高等学校体育連盟が主催する体育大会に卓球、陸上、サッカー等が継続して出場し、令和元年度第 5 回全国知的障害特別支援学校高等部サッカー選手権「もうひとつの高校選手権 2019」において全国ベスト 4 に輝くなど実績を残されております。このような沖縄高等特別支援学校の取り組みは、軽度知的障害のある生徒の教育を牽引していただくとともに、毎年多くの優秀な人材の輩出につながっております。そして、沖縄高等特別支援学校の教育的蓄積は、沖縄高等特別支援学校を母体校として平成 22 年、26 年に開設された「中部農林高等学校分教室」、「南風原高等学校分教室」、「陽明高等学校分教室」の礎となり、3 つの分教室が本校化された平成 29 年以降も継承されているところです。

沖縄高等特別支援学校におかれましては、これまでの素晴らしい取り組みや実績を継承し、新特別支援学校高等部学習指導要領に示された地域に開かれた教育課程の実践において、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に取り組んでいただくことを希望します。関係機関等の皆様を始め、企業と手を携え、教育活動の充実と生徒の皆さんが、社会参加し、活躍することを期待いたします。

結びになりますが、これまで御尽力いただきました保護者の皆様、歴代校長をはじめ教職員、全ての皆様に心から感謝申し上げますと共に、沖縄高等特別支援学校が生徒個々の教育的ニーズに応じ、一人一人の生きる力を育みながら職業自立を図ることができる学校として一層の充実を祈念し、お祝いのことばといたします。



## 祝 辞

創立 30 周年記念事業実行委員長

池田 佳菜

沖縄県立高等特別支援学校がこのたび創立30周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。またこの記念行事に関われたことを嬉しく思っております。

沖縄県立高等特別支援学校は先生方や保護者、地域の方々など関わっていただいた皆様のご理解、ご支援によってこの30年間たくさんの卒業生が、働く喜びや素直な心、明るい笑顔をもって巣立っていきました。

なかには結婚し、家庭を築き一人前の社会人として「希望・敬愛・自立」の校訓通りの人生を歩んでいる卒業生もいます。

私は娘が高等特別支援学校に合格したとき、嬉しさとともに、寮生活になじめるのかとても不安でした。1年生のときは環境の変化に対応できないこともあり対人関係で悩むこともありましたが、しかし寄宿舍の先生方や友人の支援もあり2年生、3年生と年月を重ねるごとに大きく成長していきました。いまでは卒業後の人生設計について話しあうこともあります。

沖縄高等特別支援学校は沖縄県で唯一、全校生徒が全寮制で生活習慣を学ぶことのできる学校であり、障害をもつ子どもたちの社会生活訓練の場として寄宿舍での集団生活や他人とのコミュニケーションのとり方を学び毎日の日課活動で「自分のことは自分でする」ことを学び社会へと旅立っていきます。そういう先輩の姿が後輩へと引き継がれ、30年の歴史となって今日があるのだなと感じております。

沖縄高等特別支援学校はこれから31年目になり、さらに40年、50年における進み続けていくと思いますが、良い伝統はしっかり受け継ぎ、常に新しいことも取り込みながら発展していくことを願っております。

最後に今回の30周年を通過点として卒業生や在校生、これから入学してくる生徒たちにも同じく沖縄高等特別支援学校の良い伝統が受け継がれ、いつまでも学校に愛着を持ってくれることを願って沖縄高等特別支援学校30周年のお祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

うるま市長 島袋 俊夫

沖縄県立沖縄高等特別支援学校が創立30周年の佳節を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

沖縄高等特別支援学校は、当時県内唯一の全寮制高等養護学校として、平成3年4月1日に県立教育センターにて第1期生45人を迎えての入学式が執り行われ、同年9月より、うるま市（旧具志川市）田場に完成した新校舎での学校生活が始まりました。

「希望（ゆめ）」「敬愛」「自立」を校訓に掲げ、特別支援教育を必要とする軽度の生徒を対象に「生徒一人一人の特性等を最大限に発揮させ将来の職業的・社会的自立を図り働く喜びと誇りを持ち、自他ともに敬愛する心豊かな人間の形成を目指す。」ことを教育目標として学校並びに寄宿舎との協働のもと教育活動に力を注いでこられました。

平成29年度に「普通科」を「就労技術科」に改編するなど、就労先の多様化にも積極的に取り組まれ、平成30年度と令和元年度の卒業生進路決定率が100%を達成されましたことは、誠に喜ばしい限りであります。

開校からこれまでの卒業生は1,200人を超え、卒業後は製造業をはじめ、流通業、清掃業、クリーニング業等、様々な職場や社会での自立を果たし、地域の発展に貢献されておりますことは、歴代の校長先生をはじめ、諸先生方の熱意と愛情あふれるご指導や、PTAそして地域の皆様方の温かいご支援、ご協力の賜と深く感謝申し上げる次第であります。

また、毎年12月に開催される「沖高特祭」には、市内外から多くの方が来場し、木工作品や丹精込めて育てた植木が早々に完売するなど、うるま市の風物詩として定着しております。

この度、30周年の節目にあたり、沖縄高等特別支援学校創立30周年記念事業実行委員会ならびに関係各位のご尽力により、記念誌の発行をはじめ多くの記念事業を推進されますことは、貴校の更なる教育環境の整備と、教育振興に寄与するものであり、深く敬意を表します。

結びに、これまで培われてきた伝統と実績を礎に、沖縄高等特別支援学校がさらに飛躍・発展されますよう、そして校長先生をはじめ諸先生方、PTA並びに地域の皆様の変わらぬご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます、お祝いのことばといたします。



## 祝 辞

PTA会長 平良 直子

梅雨明けとともに、厳しい暑さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

沖縄県立高等特別支援学校30周年、誠におめでとうございます。

PTAを代表いたしまして、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

本校は「希望」（夢の実現を目指し、勉強に励む明朗、活発な人）、「敬愛」（広く友情を深め、自他共に敬愛する心豊かな人）、「自立」（職業的、社会的自立を目指し、自らの人生を切り拓くたくましい人）を校訓としております。

他の学校にはない寄宿舎生活の中、厳しい規則や指導がある中で、生徒達は個々それぞれ課題に直面すると思います。

30周年節目の年に、新型コロナウイルスという今まで誰も経験した事のない状況が発生しました。

これまで以上に、不安や怖さがあると思います。

PTAとして、コロナ対策をしながら、今やれる事、今できる事（家の中でも）をやっていけたらと思います。

本校は地域とともに歩んでまいりました。これもひとえに歴代の校長先生をはじめ、先生方のご努力のたまものと、深く感謝する次第です。また、地域の方々の温かいご支援にも感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

私どもPTAも、微力ながら、今後も協力してまいります。

これからの沖縄県立沖縄高等特別支援学校の益々の発展をお祈りして、あいさつの言葉とさせていただきます。



## 30周年を迎えて

生徒会会長 長浜 李菜

沖縄高等特別支援学校創立30周年、この記念すべき年を在校生として迎えることができ、とても嬉しく思います。私は本校に、平成30年4月に入学してきました。入学当初抱えていた、憧れの高校生活への期待感や沖縄県全域から来た友達と仲良くできるかという不安もありましたが、今では、充実した生活を送っています。

本校では、体育祭や冲高特祭など、毎年たくさんの行事があります。行事を成功させるために、生徒会が中心となりながら、学年の垣根を越えて全学年で協力して取り組んできました。時にはケンカをすることもありましたが、成功させたという達成感を多くの仲間たちと共有することができました。そこでの経験や学びが今の日常生活に生かされていると実感しています。

学習面においても、入学時から就職に向けた実践的な授業を受けることができます。特に2・3年生から始まるコースでは、農園芸、窯業、木工、クリーニング、流通サービスといった、5つのコースがあります。私は流通サービスコースを選択し、様々な種類のケーキを1から丁寧に作りあげ、作った商品を校内の先生方や外部の方に販売しています。その他にクリーニングでは、先生方の衣類などを回収し、様々な機械を使って、ズボンやワイシャツ、シーツなどを仕上げて配達をしています。農園芸では、季節によって色々な花や野菜などを育て、窯業では、お皿やコップ、ゴーヤ、トントンミーの箸置き、木工では、テーブルや椅子などを制作しています。これらのコースで栽培・制作した製品は、毎年12月にある1番大きなイベントの冲高特祭で来場された多くのお客様に販売しています。また、クリーニングでの取り組みを体験ができます。この冲高特祭の取り組みで、接客面での成長ができました。

進路面に関して本校は、3年間で、各事業所での6回の就業体験があり、普段の授業やコースの授業を通して、働く力を身につけ、卒業後の就職に向けて一生懸命頑張っています。私は、3回の校外での就業体験を行い、保育補助、接客業、清掃業の事業所でお世話になりました。どの事業所でも、丁寧な指導、安心して仕事に臨めるようにするための配慮をしてもらいながら、仕事に対する大変さや楽しさを実践的に学びながら、コミュニケーション能力の大切さに気づくことができました。

寄宿舎では、最初は慣れないことばかりでしたが、入学当初から自立に向けて、洗濯や整理整頓、清掃などを先輩方や先生方から優しく教えてもらいました。今では、先輩という立場になり、後輩たちに日課を丁寧に教えることができます。また、寄宿舎での行事では、お楽しみ会や夏祭り、学期毎にある誕生日会やクリスマスパーティーなど、たくさんの行事があり、それらの行事を舎友会役員が中心となって、盛り上げてくれます。寄宿舎での生活は、きついこともありますが、自立した大人になるために必要なことを学べることができ、他の学校では経験できない思い出を作ることができました。

私は、この学校に入学して、1番嬉しかったことが「たくさんの仲間ができたこと」です。3年生になった今、今度は、ここにいる全生徒が、「この学校に来て良かった」と思えるように、生徒会を中心にみんなと協力しながら頑張っていきたいと思っています。

そしてこれからも、たくさんの花に囲まれた素敵な学校であり続け、私たちが卒業しても、自立を目指しながら、みんなが元気で仲良く協力し合える沖縄高等特別支援学校であることを心より願っています。



## いったい、「沖縄高等特別支援学校」とはどんな学校か

第12代校長 與那覇 広次

本校は独特な学校である。同じ知的障がい校でありながら、中重度対象校とはまるで違い、同じ軽度対象校であっても一般高校の敷地内にある高特支ともまた違う。おそらく、それは次の3つの条件が絡み合っただけで醸し出したもので、いわゆる“校風”と呼べるものかもしれない。

一つ目の条件 — 知的程度が「軽度」だということ。私は長いこと中重度の子どもたちと関わってきた。その経験から“軽度の子どもたちも彼らとそう違わないだろう”と高を括り、本校に赴任した。現実には驚くほど違った。それが次の言葉である。まさに本校生徒は関わってみなければ分からない存在であった。ちなみに、本校には展示会を開くほどの貝殻博士もいれば、野球・サッカー解説者、小説家など、すごい能力をもった生徒もいた。

「実際、軽度知的障害生徒と関わっていると、“一体、この子どもたちは何が問題なのか”と分からなくなるほど、会話や行動が通常でスムーズである。つまり、“中・重度”と言われる子どもたちと“軽度”と言われる子どもたちとでは、物事に対する知識量や会話、活動や行動範囲のレベル（いわゆる社会的な自立生活の可能レベル）が明らかに違うのである。具体的には、男女の恋愛や性的問題（異性への関心は身体発達上、自然である）、学校行事やサークル活動の主体的運営、休日での仲間付き合い（学校行事後の打ち上げパーティなど）、喫煙や深夜徘徊などの校則違反、学年進級に伴う先輩意識と行動の落ち着き、自動車運転免許取得への取り組み、就職の可否に対する期待と失望、等々である。」

二つ目の条件 — 「寄宿舎での集団生活者」だということ。これは一般高校敷地内にある他の高特支と決定的に違うところで、寄宿舎生活は高特支を志願する生徒たちに最も敬遠されるものであった。

確かに親元から離れ、洗濯をはじめ身の回りの基本的なことはすべて自分でやらなければならない。しかし、その生活が1年経ち2年経ち3年経つと、他校の生徒とは比較にならぬほど立派な自律・自立性を身につけているのである。このことは、次の新聞記事から理解できるのではあるまいか。

「沖縄高等特別支援学校が初めて、企業を招いた学校見学会<sup>注)</sup>を開いた。…全寮制のある高等特別支援学校。…仕事も身の回りのこともきっちりこなしている様子が分かった。参加者からは『従来のイメージが変わった』『自社の雇用につなげた取り組みを考えたい』…」(沖縄タイムス「大弦小弦」2014年9月11日 水曜日)

「9月に実施した沖縄高等特別支援学校の学校見学会<sup>注)</sup>で生徒と接した企業の担当者は『イメージが変わった』『自分たちの職種でも働けるのでは』と口々に言った。」(琉球新報 2014年10月31日 金曜日)

「沖縄高等特別支援学校（比嘉浩校長）は2月28日、企業向け学校見学会<sup>注)</sup>を同校で開いた。…

見学したかりゆし総務部の具志堅まゆみさんは『生徒たちはみんな素直で、あいさつがしっかりしている。一つ一つ習ったことにしっかりと取り組み、一生懸命だと感じた』と感想を話した。(沖縄タイムス 2018年3月14日 水曜日)

注) トータルサポート商会：翁長 克氏による企画

三つ目の条件 — 「学校は同じ能力レベルの生徒集団」だということ。本校に入学してきた子どもたちは小中学校時代、何らかの形でいじめにあった者が多いようで、入学した一年目はまるで何か抑えられていたものから解き放たれたかのように思いを発散し、奔放に振る舞うことが多い。そのため担任や生徒指導担当者（寄宿舎+学部の職員）は多忙を極め、連日給食時間に給食ホールとは別室で話し合いが持たれる。2年目、生徒たちは学校生活にも慣れ、心も落ち着き、サークル活動や部活動など、仲間との関係を最も楽しみ過ごしていくようになる。しかし、3年目を迎えると、今度は卒業後の生活が絡み、生徒たちは就職を意識し、担任や進路指導担当者はその問題で多忙を極めることになる。これが私の本校での現実であった。子どもたちのその3年間の様子をまとめると、次のようになろう。

高1期	発散・解放 — 乱れ	(心内は) 寄宿舎生活を中心とした動き
高2期	学校生活の充実 — まとまり	サークルや部活を中心とした仲間関係での動き
高3期	社会生活の意識 — 落ち着きと不安	進路を中心とした動き

ところで、以上述べたことから、読者の皆さんはその指導に関わる学部や寄宿舎の先生方が如何に相互連携を図り、子どもたちに対応していたかが見えたであろうか。

私はこの先生方の並々ならぬ努力と連携をとる姿に「沖縄高等特別支援学校」の存在意義を実感し、その先生方と共に三年間を歩めたことにとってもプライドをもっている。そして、何よりも私の目から鱗を落とし、人やその能力の多様さに気づかせてくれた子どもたちに心より感謝したいと思っている。子どもたち、先生方、ほんとうにありがとうございました。



## 創立 30 周年記念誌発行に寄せて

－ OKT（平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月）を振り返って－

第 13 代校長 比嘉 浩

沖縄県立沖縄高等特別支援学校が創立 30 周年という記念すべき年を迎えられ、ここに記念誌が発行されることは誠に意義深く、心からお喜び申し上げます。

さて、私と本校との関わりは、平成 5 年度県立総合教育センター長期研修員の研究の一環として訪問したのがはじまりでした。その後教育行政赴任時には、沖縄高等特別支援学校を本校とする県内初の高等学校への分教室設置の施策において、当時の與那覇校長先生や中部農林高等学校・南風原高等学校・陽明高等学校長先生方と意見交換をしながら取り組んだことが深く記憶に刻まれています。そこで、そのような関わりを踏まえ、第 13 代校長として赴任した平成 27 年 4 月から退職の平成 30 年 3 月までの、学校経営 3 年間を振り返ってみたいと思います。

赴任当時の課題は、これまで 2 倍以上を超えていた本校入学志願者が、各高等学校に設置された分教室に流れてしまい、「全寮制の学校生活を通して軽度知的障害のある生徒の職業自立を図る」という本校開校理念をいかに継続していくかでした。その対応として、寄宿舎生活に対する生徒・保護者のニーズをアンケート調査し、インクルーシブ教育の構築に向け寄宿舎規定の一部見直しや、全寮制高等支援学校である本校の PR 及び理解を深める体験入舎・体験入学の徹底を、教育行政とも連携しながら進めていきました。

2 年目は、入学志願者の更なるニーズに応えるため職業教育を主とする専門学科への学科改編に取り組みを進めました。合わせて校舎施設の改善・充実にも取り組み体育館・寄宿舎照明の LED 化やトイレの洋式化、学科改編の目玉である流通・接客サービス施設が実現できました。分教室入学定員の増加に伴う分教室設置高等学校と本校の調整、教育環境整備は 2 年目の大きな課題でした。入学式・卒業式の在り方や生徒・職員の管理体制の改善を進めるため教育行政との密なる連携を行いました。その結果、平成 29 年 4 月に 3 つの分教室は、高等学校併設型の高等支援学校としてスタートすることが叶い、沖縄県におけるインクルーシブ教育の今後の発展に繋がると期待感が膨らんだことが思い出されます。

最後の 3 年目は、富山県で行われた 5 月の全国植樹祭で、学校緑化の部で本校が「文部科学大臣賞」を受賞し、その前日レセプションで校長として両陛下に拝謁し、皇后陛下に本校生徒についてお話できたことが強く印象に残っています。そして、退職が迫った 3 月、本校正門前に長年の課題であった押しボタン式横断歩道が設置され、生徒達や PTA 会長、田場自治会長らと一緒に渡り初めをしたことは忘れられません。

このように私にとって沖縄高等特別支援学校校長としての思い出は、実に深く濃密な出来事として刻まれています。

創立 30 周年記念を迎えた本校は今後とも、「全寮制の学校生活を通して軽度知的障害のある生徒の職業自立を図る」という本校開校理念を継続していくことをなるとは思います。学校教育は生徒・社会のニーズに応えていくことも求められます。必要があるなら「変わる事（チェンジ）」にチャレンジ出来ることも期待し、これからも子ども達の職業自立・社会自立に向け、本校の更なる発展を祈念します。



## OKT の思い出

第14代校長 安里 吉実

沖縄高等特別支援学校（OKT）に初めて赴任したのは平成28年4月で、当時は寄宿舎と三分教室（中部農林高校、陽明高校、南風原高校）の担当教頭でしたが、本校での業務は勿論、週1ペースで三分教室を周り各教室の生徒や職員への対応、そして寄宿舎における各課題への対応など、めまぐるしく業務に追われていたことを思い出します。

私は、元々小学部の担任として特別支援学校で勤めてきましたので、OKTのように高等部の生徒だけの学校に赴任することに少しだけ不安もありましたが、実際に生徒達と対面すると、挨拶や態度が規律正しい生徒ばかりで、かえって私の方が教えられることが多いと感じたのが第一印象でした。また、花や緑にあふれ、きれいに清掃された校庭を見てすがすがしく感じ、気持ちも晴れやかに過ごしていけると確信できたことを今でも覚えています。

平成30年4月、OKTに校長として赴任したとき、2年前に教頭で赴任した頃と同じように、緑が多くすがすがしい雰囲気と共に、何となく落ち着いた空間、そして明るい笑顔の生徒たちと気さくな保護者との出会いを思い出すと同時に、3年生が2年前より、社会自立へ向け確実に成長している、ということを感じました。それは、生徒自身の頑張りも勿論、保護者と先生方の努力の賜だと思います。校訓である「希望・敬愛・自立」の実現へ向け、生徒の自立・社会参加を目指し、全保護者と全職員が一致団結して、生徒が明るく、心豊かで、たくましく自己実現できるよう頑張ってきたからではないでしょうか。

そして、「普通科」から「就労技術科」への学科改編を年次毎に進め、平成31年度からは全学年が「就労技術科」となり、より卒業後の一般就労を目指す学校として、「健康で明るく、主体的に最後までやり抜く力を備え、楽しく働き、社会に貢献できる人材の育成」を目標とし、更なる職業教育の充実に取り組んできました。

ところで、OKTで取り組んできたことが報われる、又は確信できる、そして一番嬉しい時は……。それは、卒業生が来校し「仕事で必要だから、自動車や大型特殊二種免許取ったよ。」「給料もらって親をレストランに連れて行った、友達とコンサートに行った。」などを報告しに来てくれた時です。

さらに、去った令和2年3月に来校してくれた卒業生は、ホテル従業員として正社員になった事の報告と共に「仕事で覚えるべき事や注意しなければいけない事などをメモに取る。」つまり在校時に取り組んできた「OKTメモを今でも活用している。」と聞いた時は、生徒や職員の“努力の証”そのものだと実感しとてもうれしく思いました。

これからもOKTの生徒が「良き職業人・立派な社会人」になれるよう、生徒・保護者・教職員の一致団結と笑顔があふれるOKTを目指し頑張ってくれることに期待します。



# 學校沿革

## 平成2年度

- 10月18日 「沖縄県立高等学校等の設置に関する条例の一部を改正する条例」の公布により名称及び位置が決定される「沖縄県立沖縄高等養護学校」「具志川市字田場」
- 11月1日 沖縄県立盲学校、聾学校及び養護学校学則の一部改正を受け、「沖縄県立沖縄高等養護学校」発足、設立準備室が県教育庁保健体育課内に設置される  
初代校長 真栄城徳仁、教頭 大城正大、事務長 波照間永紘発令
- 1月17日 第1回入学選抜検査実施、受検生72名（～18日 於：県立教育センター）
- 1月19日 文部省初等中等教育局特殊教育課教科調査官大南英明氏来訪

## 平成3年度

- 4月1日 職員発令 教諭15名、養護教諭1名、実習助手5名、事務2名、寮母12名、学校栄養職員1名、調理員4名、用務員1名
- 4月8日 第1回入学式 入学生45名（男子27名 女子18名）於：県立教育センター
- 5月10日 開校式典並びに開校祝賀会
- 5月11日 県立名護養護学校金武分校での授業開始
- 5月25日 PTA結成総会 PTA会長 田中寛氏、副会長 長嶺達男氏
- 9月12日 県立名護養護学校金武分校から本校への移転作業（～14日）
- 9月17日 新校舎への入校式
- 10月13日 第1回体育祭

## 平成4年度

- 4月1日 第2代校長 玉城義雄 他18名発令
- 4月8日 第2回入学式 入学生44名（男子21名 女子23名）
- 4月18日 文部省指定「実験学校」に指定される
- 9月8日 尚副知事本校視察
- 10月18日 第2回体育祭
- 11月8日 第2回生徒作品展示即売会
- 11月24日 2年生修学旅行（愛知県、東京都）（4泊5日）
- 12月7日 文部省初等中等教育局特殊教育課教科調査官吉田昌義氏来訪
- 2月8日 温室落成

## 平成5年度

- 4月1日 教頭 田中康一 他28名発令
- 4月8日 第3回入学式 入学生45名（男子29名 女子16名）
- 10月23日 第1回校内陸上競技大会（具志川市営陸上競技場）
- 11月28日 第5回沖縄県養護学校体育大会初参加
- 2月15日 学校視察 東京都教育庁指導部部長吉川英宏氏 課長大南英明氏  
企画課長買手屋仁氏 経理係長服部登氏
- 2月18日 平成4・5・6年度文部省指定特殊教育実験学校2年次研究発表会
- 3月10日 第1回卒業式 卒業生41名（男子23名 女子18名）

## 平成6年度

- 4月1日 第3代校長 宮城弘典 事務長 宮良享 他16名発令
- 4月8日 第4回入学式 入学生43名（男子29名 女子14名）
- 1月27日 平成4・5・6年度文部省指定特殊教育実験学校3年次研究発表会  
（参加者 県外41名 県内97名）
- 1月29日 第1回同窓会開催（ニュー三和会館）
- 3月10日 第2回卒業式 卒業生39名（男子23名 女子16名）

## 平成7年度

- 4月 1日 教頭 田仲康丈 他15名発令  
 4月10日 第5回入学式 入学生45名 (男子22名 女子23名)  
 1月18日 寄宿舎教養講座「柔道」昇段・昇級試験、受験者全員合格  
 (初段5名1級3名2級5名3級5名4級9名)  
 2月13日 職業適性検査 (本校にて3年生全員検査)  
 3月 4日 第1回沖縄県養護学校球技大会 (サッカー優勝)  
 3月 8日 第3回卒業式 卒業生45名 (男子29名 女子16名)

## 平成8年度

- 4月 1日 第4代校長 仲田文雄 他14名発令  
 4月 9日 第6回入学式 入学生44名 (男子27名 女子17名)  
 3月 8日 第4回卒業式 卒業生39名 (男子25名 女子14名)

## 平成9年度

- 4月 1日 事務長 又吉伸子 他21名発令  
 4月 8日 第7回入学式 入学生45名 (男子28名 女子17名)  
 5月15日 宮城県立小牛田高等養護学校との交流会  
 7月 4日 県指定職業自立推進重点校中間報告会  
 11月15日 第10回全国スポーツ・レクリエーション大会開会式参加  
 12月19日 沖縄県特殊教育諸学校進路指導研究大会発表又吉てる美さん  
 12月21日 手をつなぐ育成会研究大会へ参加久保健太君・濱崎かおりさん  
 3月10日 第5回卒業式 卒業生44名 (男子21名女子23名)

## 平成10年度

- 4月 1日 定期人事異動により職員20名発令  
 4月 8日 第8回入学式入学生41名 (男子30名 女子11名)  
 10月17日 友愛ピック茨城大会バスケットボール女子優勝  
 11月12日 全特連沖縄大会 本校：分科会会場 (高等部教育、進路指導)  
 3月10日 第6回卒業式 卒業生36名 (男子22名女子14名)

## 平成11年度

- 4月 1日 教頭 松堂勝雄 他23名発令  
 4月 8日 第9回入学式 入学生41名 (男子22名 女子19名)  
 10月 5日 友愛ピック島根大会金賞 (立ち幅跳び、50M走)  
 10月22日 校訓制定委員会校訓「希望 (ゆめ)・敬愛・自立」制定  
 1月28日 第三回職業自立連絡協議会「職業自立に向けた本校教育活動への提言」  
 2月 2日 3級ホームヘルパー資格取得 (3年生2名)  
 2月18日 創立10周年記念チャリティー&地域交流コンサート具志川市民劇場  
 3月 8日 特殊教育諸学校緑化コンクール特別賞受賞  
 3月10日 第7回卒業式 卒業生44名 (男子28名 女子16名)

## 平成12年度

- 4月 1日 第5代校長 大濱克巳 事務長 金城洋子 他26名発令  
 4月10日 第10回入学式 入学生40名 (男子22名 女子18名)  
 5月12日 創立10周年記念式、校訓碑除幕式及び祝賀会  
 10月27日 友愛ピック岐阜大会準優勝報告会バスケット選手8名  
 1月18日 平成13年度入学者合格発表40名 (男21名、女19名)

2月17日 沖縄県学校ダンスフェスティバル参加「風の祈り」会長賞受賞  
3月9日 第8回卒業式 卒業生38名(男28名 女10名)

#### 平成13年度

4月1日 教頭 新川善昭 他19名発令  
4月9日 第11回入学式 入学生40名(男子21名 女子19名)  
7月15日 新同窓生歓迎スポーツ大会・懇親会(体育館)  
8月2日 手をつなぐ育成会(福岡大会)3年太田健、2年比嘉幸恵体験発表  
10月25日 全国障害者スポーツ大会(宮城県)  
女子バスケット部準決勝進出、比嘉尚次(2年生)男子50M優勝  
11月16日 第42回九州音楽教育研究大会(沖縄大会)で合同演奏(53名)  
3月8日 第9回卒業式 卒業生40名(男21名 女19名)

#### 平成14年度

4月1日 第6代校長 牛田勝己 事務長 田村晃 他18名発令  
4月9日 第12回入学式 入学生40名(男子22名 女子18名)  
9月15日 南極観測船「しらせ」隊員へ窯業作品贈呈  
生徒代表(當間信輔、比嘉幸恵)  
11月7日 全国障害者スポーツ大会(高知県)女子バスケット、男子卓球  
2月8日 第28回沖縄県青少年科学作品展出展  
2月15日 沖縄県学校ダンスフェスティバル会長賞受賞  
知的障害者教育・福祉・就労研究大会(意見発表:佐久川沙織、澤岷司)  
3月7日 第10回卒業式 卒業生40名(男22名 女18名)

#### 平成15年度

4月1日 教頭 宮城進 他20名発令  
4月8日 第13回入学式 入学生40名(男子20名 女子20名)  
11月6日 全国障害者スポーツ大会サッカー一部出発  
2月27日 スペシャルオリンピックス長野大会フロアホッケー出場  
3月5日 第11回卒業式 卒業生40名(男子21名 女子19名)

#### 平成16年度

4月1日 第7代校長 當山昇 教頭 照屋成順 他21名発令  
4月8日 第14回入学式 入学生40名(男子28名 女子12名)  
9月12日 高等学校新名卓球選手権大会(仲田慎、屋比久博之、前原光)  
9月18日 沖縄県空手道大会(與那嶺修司)  
11月13日 第4回全国障害者スポーツ大会(菊池小百合、国場奈々美、下地亜理沙)  
2月26日 スペシャルオリンピックス世界大会フロアホッケー銀メダル受賞  
3月11日 第12回卒業式 卒業生37名(男子21名 女子16名)

#### 平成17年度

4月1日 事務長 赤嶺創錦 他35名赴任  
4月7日 第15回入学式 入学生40名(男子22名 女子18名)  
5月28日 高校総体 陸上部・卓球部出場  
8月18日 平成17年度沖縄県高等学校卓球選手権大会参加  
11月5日 第5回全国障害者スポーツ大会ソフトボール・卓球出場  
11月19日 県緑化コンクール準特選受賞  
2月13日 沖縄県児童生徒等表彰(3年新垣里奈)

- 3月10日 第13回卒業式 卒業生40名 (男子20名 女子20名)
- 平成18年度
- 4月1日 第8代校長 塩浜康男 教頭 城間律子 他31名赴任
- 4月7日 第16回入学式 入学生40名
- 5月26日 高校総体(陸上部、卓球部参加)
- 6月16日 九州高文連美術、工芸、書道、写真展 鹿児島大会(3年森佐和香参加)
- 10月12日 全国障害者スポーツ大会兵庫大会(女子バレーボール部、卓球部)
- 10月20日 沖縄都市緑化コンクール最優秀賞(沖縄県知事賞)受賞
- 11月11日 第29回高校総合文化祭美術工芸部門優秀賞棚原美輝子
- 3月9日 第14回卒業式 卒業生38名(男子27名 女子11名)
- 平成19年度
- 4月1日 定期人事異動により28名赴任
- 4月9日 第17回入学式 入学生48名(男子30名 女子18名)
- 6月16日 九州高文連美術、工芸、書道、写真展宮崎大会(3年棚原美輝子参加)
- 7月18日 米軍車両本校校門へ侵入
- 10月11日 全国障害者スポーツ大会男子ソフトボール部13名出場(秋田県)
- 3月9日 第15回卒業式 卒業生37名(男子21名 女子16名)
- 平成20年度
- 4月1日 第9代校長 知花久則 事務長 安和守浩 他22名赴任
- 4月7日 第18回入学式
- 6月2日 県高校総合体育大会陸上出場(3年宮城達也2年石垣孝明、吉味雄作)
- 6月9日 危険物取扱者丙種試験合格(3年永山和樹、幸地龍太郎)
- 8月10日 うるま市ハーリー競争大会初参加(球技部)
- 10月14日 全国障害者スポーツ大会陸上の部(3年平良仁美)
- 3月6日 第16回卒業式 卒業生37名(男子19名、女子18名)
- 平成21年度
- 4月1日 県条例並びに沖縄県立特別支援学校管理規則の一部改正により学校の名称を「沖縄県立沖縄高等特別支援学校」に変更
- 第10代校長 新垣ひろみ 教頭 仲村渠修 他25名赴任
- 4月7日 第19回入学式
- 4月13日 学校名変更に伴い、校歌の歌詞とメロディーの一部を変更
- 4月19日 九州高文連美術・工芸、書道、写真展(大分大会)(3年宮城修一朗)
- 10月8日 全国障害者スポーツ大会(新潟大会)(3年普天間優名3年赤嶺良太)
- 10月28日 沖縄県緑化コンクール「学校環境緑化の部」特選(県知事賞)受賞
- 1月29日 平成22年度入学志願者選抜検査合格発表(分教室初の合格者)
- 合格者:本校45名 南風原分教室9名 中農分教室8名
- 3月5日 第17回卒業式 卒業生48名(男子30名 女子18名)
- 平成22年度
- 4月1日 県立南風原高等学校と県立中部農林高等学校に本校分教室設置  
(南風原分教室と中部農林分教室に各1教室)
- 定期人事異動により36名赴任
- 4月7日 第20回入学式 本校45名 南風原分教室9名 中農分教室8名
- 10月23日 全国障害者スポーツ大会ゆめ半島千葉大会 陸上、卓球、水泳に出場

- 10月20日 創立20周年記念式典・祝賀会  
3月4日 第18回卒業式 卒業生42名 (男子21名 女子21名)

平成23年度

- 4月1日 第11代校長 中石直木 教頭 金城馨 他42名赴任  
4月7日 第21回入学式 本校45名 南風原分教室10名 中農分教室10名  
5月15日 全国障害者スポーツ大会知的障害者サッカー競技  
九州ブロック地区予選会 (宮崎県) ブルーシーサー優勝  
6月19日 全国障害者スポーツ大会知的障害者女子バスケットボール競技  
九州ブロック地区予選会 (宮崎県) ちゅらさん優勝  
10月18日 沖縄県教育委員会指定グループ研究公開授業  
10月22日 全国障害者スポーツ大会山口大会男子サッカー第3位  
12月11日 園芸コース新品種コリウス売上金を震災復興義援金として寄付  
3月9日 第19回卒業式 卒業生44名 (男子28名 女子16名)

平成24年度

- 4月1日 第12代校長 與那覇広次 他39名赴任  
4月9日 第22回入学式 本校45名 南風原分教室10名 中農分教室10名  
6月16日 全国高校野球選手権大会沖縄大会に中部農林高校野球部選手として  
中部農林分教室3年の照屋陽が出場  
7月14日 県障害者技能競技大会パソコンデータ入力銅賞：伊佐大輔  
10月11日 全国障害者スポーツ大会出場：女子バスケットボール、水泳、卓球  
10月26日 南風原分教室多目的教室・実習棟竣工  
3月8日 第20回卒業式 卒業生58名 (男子35名、女子23名)

平成25年度

- 4月1日 教頭 平良浩希 他37名赴任  
4月8日 第23回入学式 本校45名 南風原分教室10名 中農分教室10名  
5月31日 県高校総合体育大会出場 (水泳・卓球)  
5月15日 県福祉保健部訪問 九州サッカー大会優勝報告  
5月30日 入学希望者への寄宿舍体験入舎  
11月8日 沖縄県高等学校総合文化祭舞台発表 南風原分教室  
11月13日 県高校新名体育大会卓球団体県ベスト8  
3月7日 第21回卒業式 卒業生43名 (男子26名 女子17名)

平成26年度

- 4月1日 教頭 大城麻紀子 他30名赴任 ※教頭2人制となる  
県立陽明高等学校に本校分教室設置 (陽明分教室 1教室)  
4月7日 第24回入学式 入学生75名 (男子47名 女子28名)  
本校45名、中部農林分教室、南風原分教室、陽明分教室各10名  
5月25日 全国障害者スポーツ大会バスケットボール九州地区予選優勝  
5月31日 県高校総合体育大会出場 (卓球・水泳)  
7月12日 沖縄県障害者技能競技大会  
オフィスアシスタント競技金賞 (金城龍)  
喫茶サービス競技金賞 (比嘉美晴)  
11月2日 全国障害者スポーツ大会 (長崎県) 卓球、バスケットボール出場  
11月12日 手作り弁当コンテスト (主催コープおきなわ)  
準グランプリ受賞 (中農分教室赤嶺良太、玉城響)

- 11月21日 全国障害者技能競技大会（愛知県）出場し努力賞受賞  
 11月23日 沖縄県特別支援学校体育大会  
 大会新記録：女子400MR、男子ソフトボール投げ、女子走り高跳び  
 1月12日 日本障害者選手権水泳競技大会（千葉県）  
 25M平泳ぎ2位、50M平泳ぎ3位（南風原分教室上原ひかり）  
 2月11日 沖縄児童生徒書き初め展高校の部金賞5名（南風原分教室）  
 3月6日 第22回卒業式 卒業生58名（男子32名、女子26名）
- 平成27年度  
 4月1日 第13代校長 比嘉浩、教頭 新屋敷誠 他40名赴任  
 4月7日 第25回入学式 入学生75名（男子53名、女子22名）  
 本校45名、中部農林分教室・南風原分教室・陽明分教室各10名  
 7月9日 日本漢字能力検定  
 合格者 2級伊佐泉美（3年） 準2級伊佐美波、玉城和典（3年）  
 10月23日 全国障害者スポーツ大会（和歌山県～25日）  
 陸上、卓球、サッカー、バスケット女子に出場  
 11月11日 平成26・27年度沖縄県教育委員会研究指定校研究発表会  
 12月11日 第44回沖縄県特別支援教育研究大会 会場：本校  
 2月5日 県児童生徒表彰【他の児童生徒の模範部門】備瀬遥（南風原分教室）  
 2月9日 特別支援学校技能プレ検定開催（本校体育館）  
 2月12日 全沖縄児童生徒書き初め展金賞桃原萌  
 2月29日 日本漢字能力検定合格者2級玉城和典（3年）  
 3月11日 第23回卒業式 卒業生63名（男子36名、女子27名）
- 平成28年度  
 4月1日 教頭 安里吉実、事務長 小渡靖 他35名赴任  
 4月7日 平第26回入学式 入学生74名（男子43名、女子31名）  
 本校44名、中部農林分教室、南風原分教室、陽明分教室各10名  
 5月28日 県高校総体レスリング競技2位仲程生龍  
 8月22日 児童・生徒の平和メッセージ作文の部：最優秀賞 知名敏希  
 10月29日 県高等学校新人体育大会レスリング1位：仲程生龍（九州大会5位）  
 12月16日 第45回沖縄県特別支援教育研究大会 会場：本校  
 3月10日 第24回卒業式 卒業生75名（男子47名、女子28名）
- 平成29年度  
 4月1日 中部農林、南風原、陽明の各分教室が高校併設高等支援学校として開校  
 定期人事異動により20名赴任 ※教頭1人制となる  
 4月7日 第27回入学式 入学生45名（男子30名、女子15名）  
 5月26日 県高校総体出場（卓球、バドミントン）  
 5月28日 全日本学校関係緑化コンクール特選 文部科学大臣賞受賞  
 7月22日 地方アビリンピック大会 金賞：オフィスアシスタント  
 2月2日 特別支援学校体育連盟駅伝大会Aチーム優勝、区間1位3名  
 3月9日 第25回卒業式（男子34名、女子10名 計44名）  
 校門前押しボタン式信号機設置・横断歩道移設完成式典
- 平成30年度  
 4月1日 第14代校長 安里吉実、教頭 下地靖子、事務長 玉城整 他23名赴任  
 4月9日 第28回入学式 入学生45名（男子31名、女子14名）

- 9月 児童・生徒の平和メッセージ詩の部：最優秀賞 外當わかな  
 10月 全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール  
 図画の部最優秀賞（安里学）韻文の部最優秀賞（池田心咲）  
 おきなわの観光絵画コンクール審査員特別賞（名嘉眞脩介）  
 10月13日 全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」出場  
 12月 3日 全国アビリンピック大会 木工・喫茶サービス出場  
 12月17日 第22回高校生美ら産フェア展示即売会参加  
 12月 第25回全国特別支援学校文化祭  
 全国特別支援学校知的障害教育校長会長賞（比嘉華乃）  
 第64回青少年読書感想文全国コンクール  
 特別支援学校支部最優秀賞（野邊瑠花）  
 1月 6日 第13回うるま市「ありがとうの手紙」作文コンクール金賞國場夢香  
 1月31日 全国高等学校家庭科食物調理技術検定合格者4級（野崎剣志）  
 2月 第57回全沖縄児童生徒書き初め展最優秀賞（比嘉華乃）  
 2月 1日 特別支援学校体育連盟駅伝大会  
 （Aチーム優勝 区間1位：比嘉亜夢、区間新）  
 3月 8日 第26回卒業式 卒業生44名（男子26名、女子18名）

#### 平成31年度 令和元年度

- 4月 1日 定期人事異動により26名赴任  
 4月 9日 第29回入学式 入学生45名（男子28名、女子17名）  
 5月 1日 「平成」から「令和」へ改元  
 6月 2日 県高校総体出場（卓球：石川弓葉）  
 7月29日 中学3年生の本校進学希望者による体験入舎（～30日）  
 9月28日 第19回体育祭  
 11月 1日 開校記念日  
 11月15日 第23回高校生美ら産フェア展示即売会参加（～17日迄）  
 第38回アビリンピック大会 喫茶サービス：赤平菜々美（努力賞）  
 12月 5日 キャリア教育・就労支援発表会  
 12月 8日 第29回冲高特祭  
 12月16日 企業向け学校見学会  
 2月 4日 2学年修学旅行（～7日東京都・千葉県・新潟県）  
 2月 7日 特別支援学校体育連盟駅伝大会（区間1位：東江康孝、飯田優希）  
 2月16日 第5回全国知的障害特別支援学校高等部サッカー選手権第4位  
 3月 4日 新型コロナウイルス感染防止のため県立学校臨時休業  
 3月10日 第27回卒業式 卒業生44名（男子30名、女子14名）  
 3月16日 学校再開  
 3月24日 令和元年度修了式・離任式

#### 令和2年度

- 4月 1日 第15代校長 渡久地直哉、教頭 稲田洋一、事務長 新屋秀樹 他33名  
 赴任  
 4月 7日 新型コロナウイルス感染防止のため県立学校臨時休業  
 5月21日 学校再開 令和2年度就任式・一学期始業式  
 第30回入学式 入学生45名（男子34名、女子11名）

# 思い出を語る



## 沖縄高等特別支援学校 創立 30 周年にあたって

平成 30 年度 P T A 会長 比嘉 優人

沖縄県立沖縄高等特別支援学校、創立 30 周年おめでとうございます。本校がこの度、節目となる 30 周年を迎えることが出来たのも、歴代の校長先生はじめ学校教職員、寄宿舎職員の皆様のたゆまぬご指導、又、ここ田場地区はじめ地域の皆様、学校関係者の皆様、そして歴代 P T A 役員および会員の皆様のご尽力の賜物であると深く敬意を表します。

私は、息子が平成 29 年度にこの学校に入学しました。私たち家族は軽度発達障害、知的障害を持っている息子が将来、自立して生きていくためにはどのように育ててゆけばよいのかをずっと考えていました。小学校では通級教室、中学校では特別支援学級と過ごしてきた息子の次の進路を考えたときに沖縄高等特別支援学校は就労に向けたしっかりとした教育カリキュラムがあり又、寄宿舎があり自立に向けた生活指導も受けられるということもあり体験入学、体験入舎をすることにしました。わずか 1 日だけの体験入舎でしたが、息子が知らない人と 1 日過ごせていけるのかと不安な気持ちもありましたが、その不安とはうらはらに息子は充実していたようでこの学校に受験を決めました。

無事に受験も合格し、平成 29 年 4 月に入学して沖高特生としての生活が始まりました。入学当初、寄宿舎で先輩方とのトラブルなどがあり学校へ呼ばれたことも多々ありました。その時、息子の担当の先生はしっかりと息子に向き合い感情を理解してくれて決して否定せず指導してくれました。

私は少しでも息子の為にといい、積極的に学校とかかわっていきたいとの考えから、P T A 役員になろうと思いました。しかし、これまで小学校、中学校と P T A 活動ということに積極的にかかわってこなかったこともあり、うまくできるか不安もありましたが、その時の P T A 役員又、先輩保護者の方に色々教えてもらいながらとても充実した P T A 活動が出来たと思います。学校にも行く機会が増え先生方とも話をすることが出来て息子の状況も聞くことが出来、とても良かったと感じています。

その他、沖知 P 連では他の特別支援学校の保護者の方とも出会っていろんな意味で勉強になることが多くあり、又、私は息子が 3 年生の時には沖知 P 連会長として活動させて頂く機会にも恵まれそのおかげで知的障害教育校研究協議大会の全国大会にも参加させて頂いて全国の方とも交流が持てたことは非常に大きな経験となりました。

今年、息子はこの学校を卒業し、自立に向けて日々努力しております。これまで、各方面への働きかけをしてくださった先生方や諸先輩保護者の方々の努力があって私たちの子供は高い就職率、進路決定率を誇っています。これはとてもありがたいことと感謝いたします。

結びに今後も、沖縄高等特別支援学校が発達障害、知的障害をもつ子供たちの自立の助けになっていくことを期待しております。

30 周年誠におめでとうございます。



## ご挨拶

卒業生保護者 奥間 孝子

春陽の候時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度創立30周年を迎えるとの事で、心よりお祝い申し上げます。

原稿依頼を受け息子の高校生活を振り返る事ができ懐かしく、そして先生方へは感謝でいっぱいです。

私の息子は、本校を受験する前「寮に入るのは、絶対に嫌だ」と言っていました。でも分校等も含め体験し、次第にその考えにも変化が出てきました。そして自分の意志で本校を受験する事を決め15歳の息子には本当に大きな決断だったと思います。

合格発表の日合格できた事を共に喜び、でもその時の息子の一言今でもよく覚えています。「こんな学校もっとあったら落ちる人いなくていいのに」と

でも本校を卒業して思います。支援を必要としている子が息子のように多くの経験ができる環境に入れたらと

そういう世の中になって行ってほしいと願います。

親元を離れての寮生活、慣れるまで本当に大変だったと思います。でも温かく見守ってご指導下さる先生方たくさんの友人もでき「自分には仲間がいる」そのことで大きな自信もついていったように感じます。

高校生活の三年間は、息子にとって人生の中のかげがえのない時間を過ごせたと思います。学校行事で駅伝やマラソン等にも挑戦する機会があり走る楽しさを知り卒業してからも時間を調整しながら走り今でもマラソン等を続けています。

沖縄高等特別支援学校に入り先生方が丁寧な関わりで接してくれ自分に自信をつけ成長していってくれ安心して学校生活を見守ることができました。本当に先生方には感謝でいっぱいです。

卒業して就職し社会人となり大変な事も多々あると思います。でもここでの経験した事は息子にとって、これからの人生において心の支えとなり歩んでいけると思います。

息子の「頑張れる力」を信じて親として見守っていければと思っています。時には陰の立役者となりながら

結びになりますが、本校の教育活動の更なるご発展を祈念し挨拶とします。



## 祝 辞

旧職員 饒波 春美

沖縄高等特別支援学校創立30周年おめでとうございます。

いきなり自分語りのようになってしまいますが、私は沖高特創立の前年度に、中部のある中学校で補充教員として勤めていました。その時その学校の特別支援学級の先生が「今の特別支援クラスの3年生は本当に運が良い。この子達に通える高校ができる。嬉しくてたまらない。」と熱く語っていたのを耳にしました。これが私が沖高特に出会った最初の日でした。何故か30年過ぎた今でもその時の先生の声、顔、そして沖高特の1期生となったであろう特別支援学級の3年生の顔をはっきりと覚えています。沖高特の創立は、県内の関係者の期待と喜びの中で迎えられたであろうことが容易に想像できます。

私は縁あって沖高特に8年という長い時間お世話になることができました。在職中の出来事も言い尽くせないほどありますが、今回は卒業生のことを少し書きたいと思います。「先生、車の免許取ったよ。」「車買ったよ。」「車の保険が高くて大変だよ。」と連絡が入ります。みんなしっかり働いて一步一步前進しているようです。その中でも私が一番驚いた卒業生を紹介します。バスの本数が少ない職場迄、片道1時間かけ徒歩で通勤しているのだそうです。往復2時間です。次に彼女が言ったのは「歩いて浮いたバス賃は、雨の日のタクシー代にしている。」なのだそうです。さすが沖高特の卒業生です。他にも卒業生同士で結婚し、パパ・ママになって頑張っている人もたくさんいます。また、就職先で一般の方と結婚してママになった卒業生もいます。更には、卒業当時は5時間のパートとして採用されたのですが、仕事が認められ社員に登用されたとか、老人介護の現場で早朝勤務はもちろん、夜勤も任されている卒業生もいます。もちろん正社員です。このように沖高特の卒業生は自立し、社会の中で人の役に立つ立場になって活躍している人がたくさんいます。

私と連絡が取れる卒業生を少し紹介しましたが、彼らの頑張りの原動力はやはり、沖高特で学んだことが大きく影響しているのは間違いないと思います。卒業生が、沖高特で学んだことを糧に社会の一員として頑張っている事実は、沖高特が創立当初の関係者の期待に応え、成果をあげていると私自身は思っています。

創立当初は県内唯一の高等支援学校でしたが、現在は他にも高等支援学校ができました。それに伴い生徒の実態も年々変化し全寮制という特殊な条件もあり、沖高特ならではの教育の難しさや困難さがありますが、それ故に沖高特でしかできない教育があるとも思います。学部や寄宿舎の先生方の苦労は並大抵のものではないと思いますが、あとに続く生徒たちのことをよろしくお願いします。



## 今でも心のよりどころ…

県立名護特別支援学校（旧職員）狩俣 勝人

平成3年4月に私は沖縄高等養護学校（現沖縄高等特別支援学校）の寮母（現寄宿舍指導員）に臨時職員として採用されました。開校当初は、寄宿舍は1階部分だけ完成していて、校舎やプールは未完成でした。記念すべき第1回目の入学式は県立教育センターで行われました。当時は1年生40名でのスタート。ホームシックで泣く生徒もいる中でお互いが認め合って一緒に楽しみを探す日々。

そんな時、仲嶺先生から「野球部を作ろう!」と提案があり、「私も手伝わせてください」とお願いしました。そして野球部発足。私を含め選手たちのほとんどが少年野球すら経験のない生徒たちでした。初めて手にする硬式のグローブ、ボール、真っ白なユニホーム…それを手にした時の選手たちの目の輝きは今でも憶えています。練習は木工の比嘉先生を中心に毎日、土日も練習に明け暮れました。高野連には認めてもらえず対外試合ができない状態でしたが、比嘉先生の紹介で美里工業高校と合同練習ができました。選手たちは走って美里工業へ行き、初めて硬式野球部の雰囲気味わうことができました。いっしょにキャッチボールやノックを受け、練習の最後に美里工業の選手たちから「いつか試合をやろうよ」「いい試合しよう」とかけてもらった言葉に選手だけでなく私も泣きそうなくらい嬉しかったことを今でも覚えています。それから夜も手製のバーベルで筋力トレーニングを始めました。

3年間頑張ってきた硬式野球は高野連には加盟できませんでしたが、ソフトボール部として、「ゆうあいピック熊本大会」に参加しました。1回戦は、なんとか勝ちあがることができましたが、2回戦は惜しくも負けました。泣きながら整列する選手たちは、私にとってまさに高校球児でした。私は他校へ転勤し1年後に今度は本務職員として帰ってきました。時代はJリーグブーム。生徒数も120人以上に増え私も時間があれば一緒にサッカーを楽しんでいました。そのころ就労に関する調査があり、私は就職した生徒の実態調査で南風原の農場へ行きました。農場近くで待っていると卒業生が車で現れカーステレオを流しながら雑草取りを始めました。お昼ごろになると車を運転しながらどこかへ…。調べたところ、その生徒が本校の自動車免許取得第1号でした。

そして私は先輩の紹介で自動車学校の方から教本と問題集を譲り受け部屋の生徒たちに持ち掛けたところ、今まで免許を取るなど考えていなかったかのように「やっていいの?俺もやる!」と、目を輝かせて勉強に取り組んでいました。最初のころは理屈で覚えるよりも体で覚えるような感覚で繰り返しながら進め、2年目には現役で合格者も出ました。

6年間勤めた後、転勤し12年後に再び本校へ赴任してみると、教養講座という形で安慶名自動車学校の先生方がボランティアで毎月1回来舎して教えていました。やはり本物の先生が教えてくれると誰もが「私も勉強していいんだ」と希望を与えてくれると感じました。私も数名の生徒と一緒に学習を続けました。男女一緒に楽しくできて、良い思い出です。

また6年が経過して今、秋祭りや沖高特祭を見に行くと、あの頃の生徒に会うことができます。「あの頃の練習キツかったな」と懐かしむ元選手。「僕も免許取りました」「オレ車買ったぜ」と自慢する男子。「子どもが生まれました」と幸せそうな笑顔の女子、中には「私の娘が体験入舎します。よろしくね」と笑顔の子。あれから何年たったのかわからないほどの年月を経たにもかかわらず今でも本校を訪ねてきて、あの頃を思い出し懐かしみ近況を報告しあう様子を見ると、この学校が心のよりどころなのだと感じます。

創立30周年おめでとうございます。これからの本校の発展を祈念申し上げ思い出とします。



## 創立 30 周年記念に寄せて

中部農林高等学校（旧職員） 廣渡 善治

私が「沖縄高等特別支援学校」へ赴任したのは、創立 19 周年目の平成 21 年 4 月ことで、ちょうど「沖縄高等養護学校」から校名が変更になった年でした。それまでは、略して「高等養護」言うのが普通でしたが、校名変更後は自己紹介や電話応対時に「沖縄高等特別支援学校」と新正式校名で言う機会が多くなり、生徒も先生も早口言葉のように練習したものでした。そんななかで、忘年会の余興練習で OKT（Okinawa Koto Tokubetsushien）の略称が考案され、自然に定着していきました。（OKT は 10 年経った現在も使われているようですね！）

さて、私は赴任した年の校務分掌は生徒指導部でした。その最初の任務は 4 月 7 日の就任式前にありました。春休み明けに久しぶりに登校してきた 2, 3 年生の数人は金髪に近い茶髪で、列の後方で騒ぎ、式の進行を邪魔していました。彼らを静めることが、就任式で紹介してもらう前に私が最初に行った業務でした。その背景として・・・

当時の学校の 1 番の課題は、「不本意入学」してきた生徒に対する指導でした。通常学級出身の生徒が 20 ～ 30% 在籍しており、彼らの多くは療育手帳を入学後に申請し取得していました。しかし、学年に 5 人程度は、申請しても能力が高すぎて取得できなかつたり、障害受容ができていないため申請することを拒否したりする状況でした。そのため、通学していることを地域や親戚に隠していたり、在籍していることを恥じていたりする生徒が多くいました。当然、彼らは自己肯定感が低く、気持ちも学校生活も荒んでいました。不本意入学による中途退学者も年に 1 人や 2 人ではありませんでした。

そんな状況を打破すべく我々職員が団結し行ったことは、当時の県教育長が奨励していた「凡事徹底」の励行でした。「あいさつ、言葉遣いをいつでもきちんとする。」「遅刻、欠課、無断欠席はしない。」「就職面接にいつでも臨めるような身なりや服装をする。」「規則正しい生活習慣を身につける。」「高校生らしい爽やかな男女交際をする。」このように、普段の学校生活を当たり前だけど意外に難しい充実したものにしていけるように指導を行いました。そうすることにより、就業体験で企業に行ったときに「きちんと大きな声であいさつができるね。」「清潔で爽やかな高校生だね。」「礼儀正しくてよく働く実習生だね。」と高評価をもらい、自己肯定感・自己有用感、さらには一般就労の決定率を上げることができました。当時はリーマンショック後の不景気で、雇用情勢は非常に厳しいものがありましたが、「凡事徹底」の指導により、一般就労への道を切り拓くことができました。

「不本意入学」を解消するためには、「入り口」の指導も重要でした。そもそも「不本意入学」は、中学校時代の進路指導と密接な関係があります。そこで、「中学生向けの学校見学会の充実」「志願前相談・体験入学・体験入舎の導入」「受検資格や合否基準の見直し」等の改革を数年がかりで行いました。（詳細については長くなるので省略します。）その結果、中途退学者を（少なくとも私が転勤する年までは）0 にすることに成功しました。

これらの「不本意入学者をなくすための改革」には、校長をはじめ、教頭、教務部、進路指導部、生徒指導部、寄宿舎指導員等、まさに全職員が一丸となって取り組みました。当時は熱意のある先生が多く、仕事のみならず、レク、遊びや飲み会などプライベートにと多方面で大いに活躍できるメンバーばかりが揃っていました。今振り返ってみても、あのメンバーだからこそ様々な改革を実行できたのだと思います。本当に「あの仲間たち（あえてこう呼ばせてもらいます。）」には感謝しかありません。願わくば、またいつの日にか一緒に働いてみたいものです。



## みんなに感謝！

西崎特別支援学校（旧職員） 平良 尚紀

創立30周年おめでとうございます。

沖縄高等特別支援学校の思い出としては、専門高校から転勤してきて初めての特別支援学校勤務だったので、赴任した当初は右も左も分からず、他の職員に就業体験は何で2週間なの？特体連って何？という風に分からない事だらけで、戸惑ったことを覚えています。

2年目は入試係として、当時はまだ中農・南風原・陽明高等学校分教室があり受験者数も100名を超えていたので、その対応に追われていました。

3年目からは進路開拓ということで、子ども達の出口指導を担当しました。沖縄高等特別支援学校に入学してくる生徒は就職に対する意識が高く、みんな声を揃えて卒業後は「就職します！」と答えます。私は中学を卒業したばかりの子ども達がそんなことを言うことが信じられず、「働くってどういうことか知っている？」と何人にも聞き、子ども達の意志を確認しました。しかし子ども達の顔を見ていると、もの凄く真剣な表情で話をしているので、子ども達が将来楽しく仕事ができ、明るい人生が送れる手助けをしたいという一心で3年間進路担当として、子ども達と一緒に走り続けました。子ども達が卒業しても支援が必要な子もいて、就職が決まっても中々仕事に行くことができず就職先の担当者から「良い子だから辞めさせたくはないけど、このまま欠勤が続くと厳しい」と話があり、何度か家庭訪問や電話で本人とやりとりを1年位続けた結果、今では安定して仕事が出来ていると報告を受けたときや卒業してもショッピングセンター等（子ども達の就職先）で会ったら必ず声を掛けてくれて、近況を聞いて子ども達が元気に働いているのを見ると、この仕事をやっていて良かったなと思う瞬間が何度もあり本当にありがたいなと感じています。

更に職場の仲間にも恵まれ、学校を良くしていこうと心を一つにして様々な事柄に取り組めたことも誇りに思っています。

沖縄高等特別支援学校を離任して早3年が経ちますが、今でもあの時はもの凄く充実した日々を送っていたなど改めて思い起こしました。

文才がなく、とりとめもなく書いてしまいましたがこの辺りで終わりにしたいと思います。

最後に、沖縄高等特別支援学校の更なる発展を祈念します。



## 沖縄高等特別支援学校での思い出

県立那覇特別支援学校（旧職員） 新膳 才有

私が本校に赴任したのは平成26年～平成30年でした。赴任した当初、全校生徒が寄宿舎に入って1～2週間に1回しか親元に帰らない全寮制というシステムの中、頑張っていることに、自身が高校生だった時と重ねてみても、「みんなすごいなー！」と感動したのを覚えています。また、これまで赴任したことのある特別支援学校の生徒に比べ、言葉で気持ちや考えを話し、時には冗談を言って笑い合え、掃除・洗濯・アイロンなども行い日常生活の大部分を自立できていることにとても驚きを覚えました。職員室で先生方と冗談混じりに、「毎日宿泊学習ですね！」と言っていたのを思い出します。

保健室では、親元から離れている不安や、将来働いて給料を得ることができるようになるために苦手なこともやらなければならないキツさもあるからなのか、「気分が悪い」と来室する生徒が多くいました。初めは、体の問題なのか心の問題なのかの判断をすることがとても難しかったです。しかし慣れて来ると、生徒が引っかかっている部分が段々分かってきて、多くは心の問題であることに気付きましたが…。生徒が来室した際には、体のチェックや体を楽にするための対応をし、ゆっくり話を聴くことを心がけていました。でもときには、「このくらい大丈夫！仕事に就いたらしょっちゅう休むと給料がもらえず生活に困ることになる。授業に行き仕事をするための大事な勉強をしておいで！」と、叱咤激励したりもしました。また、社会人になって健康管理を自分でできるようになってほしいという思いから、来室時や時には集会時に、規則正しい生活習慣の重要性や、手洗い・うがいの感染予防について、必要な薬を自分で忘れずに服用することを繰り返し話したりしました。そんな風に生徒に向き合う内に、1年生のとき来室が多かった生徒でも、3年生になると段々と来室が減り、立派に就業体験をこなして就職を決め、卒業していきました。成長する生徒達の姿に、嬉しい気持ちになったのを覚えています。

行事で一番思い出に残っているのは、何ととっても修学旅行です。初め、4泊5日の長い日程を本校と分教室の分で2回行くと聞いたときは、何かの冗談かと思いましたが、本当でした。特別支援学校の養護教諭として修学旅行の引率は何回も経験していることでしたが、生徒と一緒にスキーをし、ディズニーランドで絶叫マシンに乗れたことは初めてで、とても楽しい思い出として残っています。

さて私にとって思い出深い勤務地である沖縄高等特別支援学校が、今年創立30周年を迎えられるということで、本当におめでとうございます。厳しくも温かい職員の指導の下、巣立った生徒達は今社会で活躍していることを見聞きします。これからも、貴校のますますのご発展と、生徒や卒業生、職員、関わる方々の健康を祈念申し上げ、寄稿いたします。



## 25期卒業生 川畑 真敏

僕は沖縄市にある美里中学校の特別支援学級クラスに三年間入って色々な先生方や友達の親支援学級の先生方に言われて沖縄高等特別支援学校を希望されました。最初は本当に高校に行く自信がなかったです。

でも入学して思ったのがクラスのみんなどあまり慣れなくて本当に大丈夫かなぁと思いました。コミュニケーションも苦手なのでとても大変でした。相手から話ししてきたので安心しました。慣れていく内に段々と友達と自分からしゃべられるようになりました。僕から見て先生方が一番大変でした。初日から怒られて本当にうるさいと思いました。しかし、後輩のみなさん、先生方は口うるさいと思うけど決してうるさいと思わないで下さい。社会に出たら本当にやかましいのがたくさんいます。先生達は生徒のみなさんが好きだから注意しているだけです。

学校生活では、一年生習ってきた木工、園芸、クリーニング、農業、窯業の5つのコースを習いました。二年生になったら5つのコースから選んで僕は物を作る事が小さいころから好きだったので木工を希望しました。

木工コースでは作業台の前で立ちっぱなしの作業だったのできたえる事ができました。

寄宿舎生活では、誕生会、三年生を送る会、夏休みのバーベキューなどをしました。僕たちの高校は全寮生なので自分の事は自分でやるのが中心で夕飯の準備、制服アイロン、洗濯干し、手洗い、朝からの部屋掃除なども全部自分達で考えながら行動しました。将来一人暮らしする人もいるので覚えながら先輩達からも聞きながら綺麗にしました。自由時間では自分の好きな時間がありました。

今の就職先は、沖縄市にある総合アルミサッシ会社です。仕事内容は各家庭にある窓枠、窓、玄関枠、ドアなどの制作などをします。その他の工事でも沖縄市内幼稚園、小中学校、商業施設などの工事もやっています。現場に出たりします。ガラスのサイズも計ってカットすることもあります。

仕事をして感じた事は、学校を卒業して社会人として必要な報告、連絡、相談が役立つようになります。僕は就職して今の仕事1年以上たったけどできる作業も増えるようになりました。やっぱり失敗する事もよくあります。ガラスを割った事もあります。自分で失敗したと思ったらまず社長に報告する事です。

目標は、たくさん働いて高級車に乗りたいです。そのために、給料を無駄にしないような生活が送れるようにしたいと思います。



## 沖縄高等養護学校時代の 思い出と過去、今、現在

1期卒業生 我那覇 好申

今から29年前の平成3年(1991年)1月、沖縄市の教育センターで沖縄高等養護学校の受験がありました。2週間後に合格発表があり、恩師の先生方、兄弟や親せきたちに喜ばれ、お母さんに「合格して良かったね」と言われたことが思い出に残っています。4月8日の入学式も教育センターでありましたが、その時点では寄宿舎も校舎も未完成でした。

入学式から5月8日までは自宅待機で宿題を行い、9日から先に出来上がった寄宿舎で生活を始めました。寄宿舎生活では、洗濯やアイロン、友達や先生方の名前や顔を覚えるに苦労しました。朝は寄宿舎から歩いてバス停まで向かい、そこからスクールバスに乗って金武分校まで通いました。自分は1年1組で学級担任は宮城藤徳先生でした。藤徳先生は自分と同じ名護市在住の先生で、マラソンを放課後頑張ったり、理科も教えたりして親しみのある先生でしたけれど、時には厳しいこともある先生でした。体育の渡久地直哉先生は他の先生に比べるとあまり怖くはないけど、きびしい時もありました。自分は友達と一緒に直哉先生の陸上部に入り、体づくりのマラソンで汗をかいて運動していました。そのほかにも先生方との思い出が沢山あったことを覚えています。新校舎移転までの4ヶ月間もいい思い出になりました。9月になりようやく移転作業が終わり、9月17日に待ちに待っていた校舎での授業が行われました。クーラーが入った校舎、体育館、ふれあい広場、窯業室、工芸室、農業室、園芸室、クリーニング室などの職業科施設も充実していました。そして10月には1期生として初めての現場実習で1週間、1月にも1週間の現場実習がありました。寄宿舎からそれぞれの事業所などへバスで通いました。初めての現場実習でもすぐには慣れませんでした。頑張るにつれてだんだん慣れてきました。

2年生に進級しクラスの担任が稲田洋一先生という新しい先生になりました。大学を卒業してすぐに教員として入った、20代前半に思える若いきびしい先生に見えました。先生が自分に「好申!話あるからここに来てごらん!友達と一緒に遊びなさいって何度も言っているのになんで先生方とだけ話をするの?こんなだったら就職したらどうなる?分かってる?」と自分のためにいろいろ指導してくれたのだと思います。また、寄宿舎の2階が出来上がり、生徒数も1期生45名だけでなく、2期生の生徒も入学して90名まで増えました。この頃お世話になった部屋担当の仲嶺真二郎先生とは今でもハガキや手紙のやりとりがあります。修学旅行の事も良い思い出です。明治村、浅草の雷門、東京タワーや東京ディズニーランド、宿泊する所、名古屋城、国会議事堂で記念写真を写したのもなつかしく思います。

3年生では、行事の秋まつりやエイサー、体育祭の棒術とダンスなども思い出です。10月には初めての養体連、12月の冲高養祭もありました。校内陸上が具志川の陸上競技場でマラソンとグランドゴルフをやったこと、養体連に初めて出場したことも思い出になりました。12月に行われていた冲高養祭では体育館でエイサーをして、午後は展示販売もやりました。寄宿舎の行事で本部の伊豆味へみかん狩りへ行き、海洋博でお昼を食べたのも思い出させます。また、3年間入浴や洗濯、アイロン、友達とテレビを見ておしゃべりをしたことも思い出です。

卒業後は本部の塩川園で石材の石を運んで並べるという作業をしました。一輪車での運搬作業はきつい作業でした。その後、与儀木工所で材木の運搬、かんな削り作業と障子の組子作成、ふすまや戸のボンドつけを行いました。木工所の方が塩川園よりは給料もいいけど指導がきびしく慣れるまでしばらくかかりました。会社に入社をして4年が過ぎた時、会社が名護市から本部町へ移転しました。自宅の名護から本部町伊豆味までの仕事に通勤する目的で原付バイクの免許を取得し、約8年間通勤しました。その後はいろいろな会社で経験をして、今は「フォープレスト」という就労支援A型事業所で塩づくりをしています。

自分たち1期生が平成6年3月10日に高等養護を卒業して27年目に入っています。現在は新型コロナウイルスが沖縄県のみならず県外や海外、いろんな所に拡大をし、在校生、職員、卒業生の皆さんも不安な日々や生活を送っているものと思います。1日でも早くコロナが解除になることを祈りたいです。

高等特別支援学校の創立30周年記念おめでとうございます。これからも社会人として張り切って頑張っていきますのでよろしくお願ひします。



資料

沖縄高等特別支援学校 年度別進路一覧 1～15期生 (職業別)

業種	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	8期生	9期生	10期生	11期生	12期生	13期生	14期生	15期生
クレーニング	14	2	4	7	5	3	4	2	4	0	0	3	1	4	4
農園芸	3	3	3	2	5	1	4	2	1	2	1	2	0	1	0
食品製造・加工	3	11	8	5	10	6	6	1	3	3	3	2	3	8	0
スーパー	2	6	3	3	4	2	3	4	2	1	7	5	4	6	3
清掃業	4	1	0	0	4	1	2	3	3	0	1	3	7	5	4
製造業	1	3	4	2	4	0	4	0	2	3	1	0	3	0	2
窯業	7	0	1	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
運輸	1	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リース業	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土木建築業	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0
塗装・看板	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調理補助	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	2	1
老人介護	0	2	1	0	0	0	3	3	1	1	2	1	4	6	4
縫製	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
保育所	0	0	0	0	1	4	3	1	1	1	0	0	1	0	0
ファーストフード	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工芸関係	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
サービス業	0	0	0	0	0	0	2	1	0	5	2	2	0	0	1
自動車整備	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	2	2	1
医療関係	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
進学	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	1	3	4	0	3
運輸業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0
作業所・授産施設	2	1	3	2	1	7	1	9	3	1	4	1	1	2	1
就労継続A型															
就労移行支援施設															
その他	2	2	3	3	2	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1
無職・未定	0	6	7	10	2	5	7	8	19	20	15	12	6	0	15
合計	41	39	45	39	44	36	44	38	40	40	40	37	40	38	40
就職内定率	90.2%	76.9%	71.1%	61.5%	88.6%	58.3%	81.8%	55.3%	45.0%	47.5%	52.5%	64.9%	82.5%	92.1%	57.5%
進路決定率	100.0%	84.6%	84.4%	74.4%	95.5%	86.1%	84.1%	78.9%	52.5%	50.0%	62.5%	67.6%	85.0%	100.0%	62.5%

沖縄高等特別支援学校 年度別進路一覧 16～27期生 (職業別)

業 種	16期生	17期生	18期生	19期生	20期生	21期生	22期生	23期生	24期生	25期生	26期生	27期生	合計
クリーニング	6	8	3	1	1	0	0	0	0	2	0	0	78
農園芸	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	34
食品製造・加工	1	2	3	3	2	2	1	1	5	5	4	2	103
スーパー	5	5	9	2	5	9	5	17	13	16	14	13	168
清掃業	3	7	3	3	5	3	7	5	3	4	6	7	94
製造業	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	32
窯業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
運輸	0	1	0	1	2	0	2	2	0	1	0	1	16
リース業	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	7
土木建築業	0	0	1	0	0	0	2	1	3	2	0	0	14
塗装・看板	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5
調理補助	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	12
老人介護	1	3	1	4	3	4	1	0	2	0	2	1	50
縫製	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
保育所	1	1	1	4	1	1	2	2	3	0	3	2	33
ファーストフード	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	10
工芸関係	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	4
サービスマン	0	0	3	1	3	7	10	0	5	8	5	5	60
自動車整備	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	11
医療関係	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	7
進学	3	0	4	4	1	4	2	0	0	0	0	0	34
運輸業	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	9
作業所・授産施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39
就労継続A型	7	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
就労移行支援施設	7	8	10	19	14	9	7	5	9	4	4	6	102
その他	0	6	0	0	3	1	0	3	0	1	0	0	31
無職・未定	0	2	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	139
合計	37	48	42	44	44	43	40	45	45	44	43	44	1120
就職内定率	62.2%	60.4%	69.0%	54.5%	61.4%	74.4%	82.5%	82.2%	80.0%	88.6%	90.7%	86.4%	74.8%
進路決定率	100.0%	95.8%	92.9%	97.7%	93.2%	95.3%	100.0%	93.3%	100.0%	97.7%	100.0%	100.0%	84.8%

# 沖縄県立沖縄高等特別支援学校創立 30 周年記念事業

## 趣 意 書

本校は、平成2年11月1日、沖縄県立盲学校、聾学校及び養護学校学則の一部改正を受け「沖縄県立沖縄高等養護学校」発足、設立準備室が県教育庁保健体育課内に設置され、初代校長に真栄城徳仁氏が発令された。平成3年1月17日～18日、第1回入学選抜検査を実施し、平成3年4月8日第1回入学式が行われ、45名の第1期生が44名の職員とともに全寮制である本校における学びをスタートさせました。

開校以来、生徒の可能性を最大限に発揮させ「生きる力」を育み、自立し社会参加をめざし「希望（ゆめ）、敬愛、自立」の校訓のもと、職業自立・社会自立をめざして取り組んでまいりました。また、平成29年度より年時的に学科改編に取り組み、平成31年度から専門学科「就労技術科」へ完全移行し、より職業自立をめざした取り組みへ邁進することができました。これもひとえに県教育委員会を始め関係機関、地域の方々、本校教育に携わった多くの先生方、そして、卒業生やPTAの皆様方など、多くの方々の惜しみないご理解とご支援の賜と深く感謝しております。

さて、本校は令和2年1月に創立30周年を迎えるにあたり、著しく変化する社会の中で、いかなる困難な場面においても、生徒たちが自分の力を発揮できるよう「生きる力」を育み、生徒自身が「なりたい自分」をイメージし主体的に学ぼうとする力（意欲・態度）を身に付けてくれることを願って取り組んでおります。

このような状況を鑑み、この度の創立30周年を意義ある節目とするため、「創立30周年記念事業実行委員会」を設立し、本校生徒の一層の成長を図るとともに、今後の本校教育振興の一助とする事業を計画しております。記念事業としては、①記念式典及び祝賀会、②記念誌発行、③教育環境の整備等の充実等を計画し、その事業達成に向けて取り組むことになっております。

つきましては、時節柄、誠に恐縮に存じますが、本校「創立30周年記念事業」の趣旨にご理解ご賛同を頂き、記念事業の資金造成にご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和元年8月27日

沖縄県立沖縄高等特別支援学校  
創立30周年記念事業実行委員会  
実行委員長 池田 佳菜  
学 校 長 安里 吉実

# 県立沖縄高等特別支援学校30周年記念事業実行委員会会則

## 第1章 総則

### (名称)

第1条 この組織は、沖縄県立沖縄高等特別支援学校創立30周年記念事業実行委員会（以下「本会」という。）と称し、事務局を沖縄県立沖縄高等特別支援学校内に置く。

### (組織)

第2条 本会は、沖縄県立沖縄高等特別支援学校PTA及び本会の趣旨に賛同する者をもって組織する。

### (目的)

第3条 本会は、沖縄県立沖縄高等特別支援学校の創立30周年記念事業を達成することを目的とする。

### (事業・業務)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業・業務を行う。

- (1) 会則の設定及び改廃の承認
- (2) 役員承認
- (3) 記念事業の企画・決定・運営
- (4) 記念事業に関する募金活動
- (5) 予算、決算に関すること
- (6) その他、本会の目的達成に必要な事項の承認

## 第2章 組織及び役員

### (役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

実行委員長1名、副実行委員長1名、顧問2名、参与1名、事務局長1名、部4長名、庶務会計2名、推進委員若干名、監査員2名

### (役員選出)

第6条 役員選出は次のとおりとする。

- (1) 委員長は準備委員会が推薦し、実行委員会結成総会（沖縄県立沖縄高等特別支援学校PTA総会）において承認を受ける。
- (2) 参与は沖縄高等特別支援学校校長1名をもってあてる。
- (3) 顧問、推進委員、会計、監査員は実行委員長が委嘱する。

### (役員任務)

第7条 役員任務は次のとおりとする。

- (1) 委員長は、本会を代表して会務を総括し、本会の議長となる。
- (2) 副委員長は、委員長を補佐し、委員長不在の時はその職務を代行する。
- (3) 顧問は、本会の企画・運営等に関し、適宜指導助言をする。
- (4) 監査員は、本会の会計を監査する。
- (5) 事務局長は、委員長の命を受け、会務を処理する。
- (6) 事務局長及び会計は、委員長の命を受け、会議の記録、書類の保管及び会務の報告等の庶務全般及び会計事務を行う。

### (役員任期)

第8条 役職員の任期は、記念事業を達成し、本会を解散するまでとする。

(機 関)

第9条 本会に次の機関を置く。

- (1) 総務部
- (2) 財務部
- (3) 式典・祝賀部
- (4) 記念誌部

(各機関の業務)

第10条 各機関は、次の業務を行うものとする。

(1) 総務部

- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| ①記念事業の推進      | ⑤趣意書、他文書に関する事     |
| ②実行委員会の企画及び運営 | ⑥各部の連絡及び調整        |
| ③記念式典に関する事    | ⑦記念事業の予算執行計画に関する事 |
| ④祝賀会に関する事     | ⑧その他総務に関する事       |

(2) 財務部

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| ①記念事業の財務に関する事     | ⑤記念事業の予算執行及び収支決算に関する事 |
| ②記念事業の寄付金等に関する事   | ⑥監査に関する事              |
| ③同窓会、一般の募金活動に関する事 | ⑦その他財務に関する事           |
| ④募金手続き、取り扱いに関する事  |                       |

(3) 式典・祝賀部

- ①業者の選定、入札、契約等の事務に関する事
- ②記念式典・祝賀会の企画及び運営
- ③その他事業（記念品・表彰状等）に関する事

(4) 記念誌部

- ①現校舎のスナップ写真撮りに関する事
- ②記念誌の作成、原稿、編集、印刷、発行に関する事
- ③記念誌の配布計画、実施に関する事
- ④その他記念誌に関する事

### 第3章 会 議

(会 議)

第11条 本会、総会及び各機関代表者会議は、委員長がこれを招集する。

(本会の解散)

第12条 本会は、創立30周年記念事業終了後、本会において事業並びに決算報告の承認を得て解散する。なお、委員長は解散後、実行委員会解散総会で事業並びに決算等を報告するものとする。

### 第4章 会 計

(経 費)

第13条 本会の事業及び会務に要する経費は、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

(諸帳簿)

第14条 本会には、次の諸帳簿を備える。

- ①会則
- ②事業計画及び予算書
- ③現金出納簿
- ④寄付金台帳
- ⑤証憑書綴り

⑥役員名簿 ⑦会議に関する書類 ⑧預金通帳 (残余財産の取扱い)

## 第5章 表彰

(表彰)

第15条 本校教育並びに本校記念事業に功績のあった方々を称えて、表彰または感謝をする。

(表彰対象)

第16条 表彰または感謝に該当する者は、次のとおりとする。

(1) 本校創立20周年以降の歴代校長、歴代PTA会長及びPTA活動において他の模範となる業績や善行があった者

(2) 本会の趣意に賛同し、記念事業達成に向けて積極的な業績をなした者

(表彰の方法)

第17条 表彰または感謝は次のように行う。

(1) 委員長及び校長の連名の表彰状または感謝状に副賞を添えて授与する。

(2) 表彰または感謝は、記念式典において行う。

(被表彰の決定)

第18条 被表彰者または被感謝者の決定は、PTA評議員や本校職員からの推薦を受け、本会が行う。

## 附則

第15条 この会則は平成31年5月から施行する。

第16条 本会は、総会で事業報告、決算報告し承認を得て解散する。

## 各部組織

### ①「総務部」

役職	氏名	所属	業務内容
実行委員長	池田 佳菜	P T A 会 長	①記念事業の推進 ②実行委員会の企画・運営 ③祝賀会に関する事 ④趣意書、他文書に関する事 ⑤各部の連絡及び調整 ⑥記念事業の予算執行計画に関する事 ⑦その他総務に関する事
事務局長	稲田 洋一	教 頭	
推進委員	玉 城 穂	教 務	
推進委員	儀間 比彩子	学 部 職 員	
委 員	比 嘉 優 人	保 護 者	
委 員	照 屋 政 也	寄 宿 舎 職 員	

### ②「財務部」

役職	氏名	所属	業務内容
庶務会計	新屋 秀樹	事 務 長	①記念事業の財務に関する事 ②記念事業の寄付金等に関する事 ③一般の募金活動に関する事 ④募金手続き、取扱に関する事 ⑤記念事業の収支決算に関する事 ⑥監査に関する事 ⑦その他財務に関する事
推進委員	太田 あずさ	学 部 職 員	
委 員	平 良 直 子	保 護 者	
委 員	比 嘉 真 由 美	寄 宿 舎 職 員	

### ③「式典・祝賀部」

役職	氏名	所属	業務内容
部 長	浦崎 美香代	学 部 職 員	①業者選定、入札、契約等の事務に関する事 ②式典・祝賀会の企画及び運営 ③その他事業（記念品・表彰等）に関する事
事務局長	稲田 洋一	教 頭	
推進委員長	当真 奈美喜	保 護 者	
委 員	与那原 陽子	保 護 者	
委 員	加 島 宏 樹	寄 宿 舎 職 員	
委 員	伊 集 広 子	事 務 現 業	

### ④「記念誌編集部」

役職	氏名	所属	業務内容
部 長	新城 朋久	寄 宿 舎 職 員	①記念誌掲載写真に関する事 ②記念誌の制作から発行に関する事 ③記念誌の配布計画、実施に関する事 ④その他の記念誌に関する事
事務局長	稲田 洋一	教 頭	
推進委員	喜納 奈々子	学 部 職 員	
委 員	前盛 佐千代	保 護 者	
委 員	喜友名 サユリ	保 護 者	
委 員	長 堂 礼 奈	事 務 現 業	

## 事業計画

事業内容	内 訳	予算案
記 念 誌	300部(72頁:カラー16頁、白黒56頁)	600,000
式 典 事 業	記念品制作費(木工、窯業)	100,000
	来賓昼食代、お祝いかるかん	150,000
	雑費(リボン、賞状、額等)	100,000
資金造成資金	サンエーチケット400枚	200,000
事 務 局	印鑑作成、郵送代等、	30,000
予 備 費		20,000
総 額		1,200,000

## 資金造成

## 沖縄高等特別支援学校創立30周年記念事業(令和2年6月12日現在)

本校保護者寄付		166,000
本校職員寄付		201,011
他校 職員寄付		460,000
他校職員寄付(内訳)	泡瀬特別支援学校	34,000
	大平特別支援学校	39,000
	沖縄ろう学校	38,000
	沖縄盲学校	20,000
	鏡が丘特別支援学校	53,000
	桜野特別支援学校	20,000
	島尻特別支援学校	23,000
	中部農林高等支援学校	7,000
	名護特別支援学校	30,000
	那覇特別支援学校	26,000
	西崎特別支援学校	16,000
	南風原高等支援学校	17,000
	美咲特別支援学校	57,000
	美咲特別支援学校はなさき分校	26,000
	宮古特別支援学校	11,000
	森川特別支援学校	8,000
やえせ高等支援学校	3,000	
八重山特別支援学校	32,000	
一般募金		68,017
広告費		55,000
20周年記念事業 繰り越し		521,638
利息		1
総収入		1,471,667

## 感謝状受賞者（敬称略）

### 1. 本校創立 20 周年以降の歴代校長

10代	新垣 ひろみ	11代	中石 直木	12代	與那覇 広次
13代	比嘉 浩	14代	安里 吉実		

### 2. 本校創立 20 周年以降の歴代 P T A 会長

11代	仲本 和美	12代	嘉数 孝代	13代	津覇 里美
14代	福永 なるみ	5代	高山 邦夫	16代	山入端 嘉光
17代	比嘉 優人				

### 3. 本校学校医・歯科医・薬剤師

学校医	仲嶺 文夫
学校歯科医	津嘉山 一
学校薬剤師	瑞慶山 純子

### 4. 長年就業体験先としてお世話になっている事業所

安慶名保育所  
春日観光ホテル  
有限会社 キャッスルハイランダー  
株式会社 三和自動車商会  
沖縄県農業協同組合具志川支店  
すこやか保育園  
多機能型障がい福祉サービス事業所 つながり  
有限会社 西原タイル商会  
有限会社 ニュー三和  
ハウス産業株式会社  
株式会社 サンエー  
有限会社 ニューラッキーランドリー石川工場  
ハッピーネス保育園  
比嘉自動車整備工場  
社会福祉法人 輝翔福祉会

# 協賛広告

この度、沖縄高等特別支援学校創立 30 周年  
記念事業へ、快くご協力を賜り誠にありがと  
うございました



OKINAWA  
GRAND MER  
RESORT



オキナワ グランメーブルリゾート

〒904-2174

沖縄県沖縄市与儀 2-8-1

TEL. 098-931-1500 FAX. 098-931-1509

オキナワ グランメーブルリゾート

検索



# 有限会社 ニューラッキーランドリー

本社

住所：沖縄県中頭郡読谷村字比謝377番地

電話：098-956-2106 FAX：098-956-9100

石川工場

住所：沖縄県うるま市石川伊波1512-2

電話：098-989-4601 FAX：098-989-4602

沖縄県  
障害者雇用推進企業



ワークわく! おーきなわ

作業内容としてベッドシーツやタオルの仕分け、たたみを行います。初めての方も、すぐ始められ簡単・安全な仕事です。

障害のある人も、ない人も一緒に楽しく働けます。職場見学・職場体験(インターンシップ)も歓迎します。





# 沖食スイハシ株式会社

【本社】浦添工場 沖縄県浦添市勢理客4-4-1

TEL : 098-876-1623

白飯・機能性ご飯・寿司ご飯・しゃり玉・  
巻き寿司・いなり寿司・お弁当・おにぎり・  
季節のおこわ・赤飯

【糸満工場】沖縄県糸満市西崎町4-10-5

TEL : 098-994-1150

生食カット野菜・加熱用カット野菜・  
フレッシュ野菜サラダ・ポテトサラダ・  
和惣菜・洋惣菜・琉球惣菜



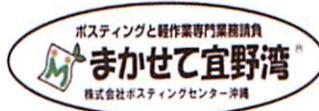
～沖縄県でポスティング・印刷・軽作業の事なら～

## [株]ポスティングセンター沖縄

沖縄県16市町村最大38万部配布可能！



那覇市古島2-26-15 1F  
TEL 098-835-5212



宜野湾市我如古3-11-5 1F  
TEL 098-917-5986



沖縄市宮里2-1-3 101  
TEL 098-934-5986

HP : <http://papernet-okinawa.com/posting/> メール : [makasete@papernet-okinawa.com](mailto:makasete@papernet-okinawa.com)



ようこそ、大自然のテラスへ。

ザ・テラスホテルズ

ザ・ブセナテラス	Tel:0980-51-1333
ザ・テラスクラブ アット ブセナ	Tel:0980-51-1113
ジ・アッタテラス クラブタワーズ	Tel:098-983-3333
ジ・ウザテラス ビーチクラブヴィラズ	Tel:098-921-6111
ザ・ナハテラス	Tel:098-864-1111
ジ・アッタテラス ゴルフリゾート	Tel:098-967-8554

www.terrace.co.jp

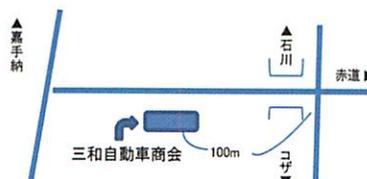
《ハイスピード50分車検実施中》

※ハイスピード50分車検はお客様立会いのもと分解点検・整備・検査を行います。但し部品取替、修理が必要な場合はお時間をいただくことがあります。

※50分車検及び割引対象車種

二輪・軽自動車・乗用車・バン車両総重量2,500kg以下の小型貨物

車検時にエンジンオイル、フィルター交換の場合工賃はサービスさせていただきます。



民間車検場 指定第62号



株式会社 三和自動車商会

〒904-2143 沖縄市知花2丁目15番5号  
TEL (098)938-5500 FAX (098)939-3383

**C.A.R.S**

CUSTOM AUTOMOBILE REPAIR SERVICE

外車、輸入車の車検、修理、販売

警告灯やチェックランプ点灯で困っていませんか？  
電話予約にて専用診断機で無料診断やってます。

株式会社あくやー

〒901-2423 沖縄県中頭郡中城村北上原850-5  
TEL:098-895-7241 FAX:098-895-5451  
E-mail:info@cars-okinawa.jp

## 編集後記

平成2年11月、九州で2番目に開校した本校の設置理由は、

1. 社会参加・自立をめざした教育課程の実施
  2. 県内特殊学級（現：特別支援学級）卒業生の進路の充実（軽度知的障害児の適切な教育）
  3. 養護学校（現：特別支援学校）規模の適正化
- でした。

そして、校木「ホルトノキ」の2枚の葉と葉脈にねがいを含めた校章を掲げ開校し、職業中心の教育課程と全寮制を柱に、職業自立に邁進する10年間の学校創生期の歴史が刻まれました。

創立10周年を記念して校訓「希望（ゆめ）・敬愛・自立」が制定されたころから、文化やスポーツ分野での活躍が台頭しはじめ、創立20周年を前後して、「沖縄高等養護学校」から「沖縄高等特別支援学校」へ校名変更、南風原高校や中部農林高校、陽明高校に分教室設置など、本県の軽度知的障害教育の充実を図って参りました。そして、校花「ベゴニア」を選定したのもこの頃、校内を彩る草花で年中栽培可能な特徴と花言葉から、優しさ（敬愛）としぶとさ（希望に向かう自立の精神）を兼ね備えた花として選ばれ、環境教育に学部と寄宿舍が連携して取り組んだ結果、後に平成29年5月、全日本学校関係緑化コンクール（高等学校の部）で特選（文部科学大臣賞）を受賞しました。

また、平成4年の創生期に本校採用され7年間勤めた私個人としては、20数年来の懸案事項であった職業学科設置が、平成29年に「就労技術科」として実現したことは記憶に新しいエポックで、まさに発展期にふさわしい20年間だったことと推察します。

本校が創立してから30年、現在では九州各県にも「高等特別支援学校」が開校しましたが、全寮制は本校と九州で最初に開校した福岡高等学園の2校のみです。さらに一期生から一貫して高率の就職者を輩出し、そのほとんどが離職せず職業自立を実践していることから、本校の存在意義に改めて気づき、職業教育・全寮制の学校生活を通して社会参加・自立の充実発展を図ることは、設立理念とその揺るがない伝統に裏打ちされたこれまでの証をさらに成熟させていくことにつながると確信しています。

本記念誌発刊に当たり、金城弘昌沖縄県教育委員会教育長、島袋俊夫うるま市長、歴代校長先生をはじめ多くの方に原稿執筆依頼をしたところ、快諾いただき感謝申し上げます。併せて、本記念誌の編集に関わった多くの方々へも感謝の意を表します。

最後に、いよいよ本校は成熟期に入ると思料します。次世代につなぐ私たちは、皆様のご期待とご厚意にこれまで以上に応えるよう、本校の教育の発展と充実に努めて参りますので、今後ともご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

創立30周年記念事業実行委員会 事務局長 稲田 洋一

---

沖縄県立高等特別支援学校  
創立 30 周年記念誌

---

2020 年（令和 2 年）7 月発行

発 行 沖縄県立沖縄高等特別支援学校  
沖縄県うるま市字田場 1243 番地  
TEL (098) 973-1661  
FAX (098) 974-1680

印 刷 赤道印刷株式会社  
沖縄県うるま市字江洲 289-1  
TEL (098) 973-3383

---



